

竜丘公民館の事業報告

No.1

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	0歳児学級		市・地	継続	5	70	15		11/5、12/4、1/20、2/24、3/10	竜丘公民館
	目的	0歳児とその親を対象に、育児不安を解消し、親の交流、親子のふれあいの場とし、また既存のサークル活動へ結びつける。	実施内容	乳児の成長発達や育児法、離乳食などについて学習する。育児相談、情報相談の場とする。育児法、子どもの接し方等について学ぶ。親の個人相談等保健師に依頼する。栄養士に離乳食相談をお願いする。			評価	【総括と今後の方向付け】子育ての支援を充実させ、安心して育児に専念できるような環境整備が求められる。特に、地域による子育て支援の充実が求められている。来年度以降も行う。地域でのサポートも広く竜丘住民が行う仕組みを模索する。		
学級・講座	1歳児学級		市・地	継続	11	165	15	43	5/15～3/19	竜丘公民館
	目的	1歳児とその親を対象に、育児不安を解消し、親の交流、親子のふれあいの場とし、また既存のサークル活動へ結びつける。	実施内容	乳児の成長発達や育児法などについて学習する。育児相談、情報相談の場とする。講師に保健師、保育士資格者をお願いし育児法、子どもの接し方等について学ぶ。親の個人相談等保健師に依頼する。			評価	【総括と今後の方向付け】子育ての支援を充実させ、安心して育児に専念できるような環境整備が求められる。特に、地域による子育て支援の充実が求められている。来年度以降も行う。地域でのサポートも広く竜丘住民が行う仕組みを模索する。		
学級・講座	2歳児学級		市・地	継続	17	170	10	60	5/23～3/13	竜丘公民館
	目的	2歳児とその親を対象に、育児不安を解消し、親の交流、親子のふれあいの場とし、また既存のサークル活動へ結びつける。	実施内容	3歳児学級を自主運営で行うための準備期間と位置づけ、学級の計画、運営を積極的に自ら行ってもらう。			評価	【総括と今後の方向付け】子育ての支援を充実させ、安心して育児に専念できるような環境整備が求められる。特に、地域による子育て支援の充実が求められている。来年度以降も行う。地域でのサポートも広く竜丘住民が行う仕組みを模索する。		
学級・講座	3歳児学級		市・地	継続	11	110	10	62	5/12～3/18	竜丘公民館
	目的	3歳児とその親を対象に、育児不安を解消し、親の交流、親子のふれあいの場とし、また既存のサークル活動へ結びつける。	実施内容	基本的に自分達で学級を運営していくことを意識してもらい、保育士がフォローする。			評価	【総括と今後の方向付け】子育ての支援を充実させ、安心して育児に専念できるような環境整備が求められる。特に、地域による子育て支援の充実が求められている。来年度以降も行う。地域でのサポートも広く竜丘住民が行う仕組みを模索する。		
学級・講座	家庭教育講演会		市費	新規	1	94	94	250	11月28日	竜丘公民館
	目的	保育園保護者を対象に、家庭教育に対する意識変化を図る	実施内容	竜丘保育園との共催で、保育園児、乳幼児の親子を対象に行う。親子での人形劇の観劇を通し、親子のふれあいを図るとともに、その後の保護者を対象に家庭教育についての講演会を行う。 劇団：人形劇団むすび座 演目：ぶんぶく茶釜・おばあさんとマリちゃん 講演：園長先生からのお話			評価	数量的成果 (項目名と数値) 保育園児：70名、未就園児：12名、親：12名 【総括と今後の方向付け】竜丘保育園との合同で開催。園児やその保護者、未就園児の親子に人形劇を観劇すること、その後の講演会を通して、保護者に家庭教育について考えてもらう良い機会となった。乳幼児学級での宣伝や、観劇後の講演内容を検討するなど充実させ、今後も家庭教育事業を継続していく必要がある。		

竜丘公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	中国帰国者支援事業「友好会」(日本語教室)		市・地	継続	88	880		6,907	通年(週2日)	竜丘公民館
	目的	中国帰国者を中心に、生活に困らない程度の日本語、習慣、文化の理解、情報交換、交流の場とする。	実施内容	講師を中心に、週2回のペースで日本語教室を開き、地域で暮らす仲間として互いの生活習慣や考え方を学びあう。また月2回、新聞を発行し、地域への情報を発信、帰国者への情報伝達を行う。講師：樫野武司(桐林)、西川和憲(松尾新井)			評価	【総括と今後の方向付け】 この様な支援事業は市内には少なく、貴重な機会となっている。今後も日常生活習慣、教育・保育、趣味、医療など広範にわたっての話題をとりあげている。 インターネットに関する要望も出ており、より充実した事業が行えるよう、支援していく。 講師も高齢となり、事業の存続自体が課題となっている。後継者の発掘が急務となっている。		
学級・講座	大人の学校		市・地	継続	12	1,800		160	通年	竜丘公民館
	目的	60歳以上の住民を対象に、高齢者層のまとまりと生きがい、地域参画を図る	実施内容	運営委員中心にして、月1回の定例講座を開催する。テーマについては、生活を取り巻く様々な課題を取り上げる。クラブ活動など必要な生涯学習の支援を行う。運営委員会・班長会・定例会(講座)・クラブ長会随時、JICA研修員生との交流を実施。			評価	数量的成果(項目名と数値) 新規入校者6名、退校者5名 【総括と今後の方向付け】 高齢化社会の地域において、益々重要な役割を果たしている。学習の成果を地域へ還元していくことを視野に入れて、小学校クラブの学習支援を行っている。今後も地域の中での大人の学校の役割を考えながら展開していく。 新規加入者の減少など、課題も出てきている。		
学級・講座	古墳の会		市・地	新規	20	400		6,907	実施内容参照	竜丘地区
	目的	竜丘地区を対象に、古墳についての知識の習得と保存活動の機運を高める	実施内容	歴史的文化遺産として古墳群を保存、継承すると共に、古墳を活用して地域の文化教育活動に貢献する。 ・学習部会; 4/29、6/8、11/24、3/6、3/21 ・イベント部会; 埴輪作り5/8、5/9、古墳まつり6/8 ・古墳公園推進部会; 除草5/24、8/23、10/18、花の会(随時) ・調査保護部会; 権現堂、塚越古墳へ標柱設置 ・啓発保護部会; JICA研修受け入れ、レガスピ市長案内等 ・塚原古墳公園・臼井川秘境遊歩道整備委員会への参画 ・塚原二子塚発掘調査等への協力 ・竜丘小総合学習への協力 ・古墳を活用した地域づくりの模索。			評価	数量的成果(項目名と数値) 学習会参加者のべ100名、整備作業参加者のべ160名、視察受け入れ約30名 【総括と今後の方向付け】 古墳まつりが、古墳により一層親しんでもらう機会となるよう、クイズラリーや埴輪づくり、花の植栽などを実施して、その更なる充実に寄与している。 除草作業や花の植栽で古墳を彩るなど、地道な活動が景観維持につながっている。 学習会では竜丘の古墳に限らず、飯伊の古墳の位置づけや、周辺の古墳の学習についてなど、昨年から引き続いての学習を進めている。 参加者の固定や、住民の主體的な活動形態の形成がまだできておらず、組織の見直しを含めて検討していく。		
学級・講座	竜丘自由画保存顕彰委員会		市・地	新規	2	40	20	6,907	実施内容参照	竜丘公民館他
	目的	地域住民に自由画の理解を深め、地域に誇りをしているよう意識の向上を図る	実施内容	小学校と連携し、竜丘に現存している自由画の保存と、その活用方法の研究、地域住民への理解をく深めてもらうための活動を行う。 ・調査保存研究事業; 上田市立美術館視察交流11/1、保存候補箇所確認2/9 ・レプリカ活用事業; 信金桐林支店展示5/16~7/18、東京竜丘会展示5/18、市政懇談会展示7/29、桐林文化祭2/1、時又文化祭2/8、その他他地区との交流会等で活用			評価	【総括と今後の方向付け】 全ての自由画を適切に保存するには、中性紙に包む処理を行ったうえで、適切な環境に保存することが必要となる。どのような方法でどこへ保存するか、検討を重ねていくと同時に、中性紙に包む作業は、予算の範囲内で随時進めていく。 レプリカを様々なところで展示したことで、反響も大きかった。レプリカの活用や学習を通じた顕彰事業の推進も並行して行っていくことが、将来的な保存にとっても大事。 引き続き民俗資料保存委員会は自由画保存顕彰委員会へ参画していく。		

竜丘公民館の事業報告

No.3

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	親子ふれあいハイキング		地区費	継続	1	51	51	6,907	5月11日	竜丘地区
	目的	小学生親子を対象に、里山を大切にす意識の向上を図る	実施内容	ふるさと教材「丘のみちるべ」を基に、竜丘地区内のハイキングをとおして、地域学習を行い、地域資源を知り、学ぶ機会とする。場合により、事前学習を行う。			評価	数量的成果 (項目名と数値) 学習箇所数:4ヶ所 【総括と今後の方向付け】 今年度は里山体験ではなく、事業名通り、地区内をハイキングしながら、地域学習を行う機会とした。オリエンテーリングを行うと同時に、臼井川秘境、環境産業公園、ギフチョウ公園、桐林クリーンセンターでは、関係者による学習会を行った。学習会時間が長すぎたこと、子どもの参加が少なかったことなど、反省点は多いが、地域学習の機会としては良い取り組みとなった。来年度以降も改善しながら実施していきたい。		
文化事業	ふるさとコンサート		市・地	継続	1	120	120	6,907	7月21日	竜丘公民館
	目的	竜丘住民を対象に、音楽を身近なものとして親しみ、音楽文化の向上を図る。	実施内容	普段ふれる機会の少ない、生のクラシック音楽にふれる機械として開催した。一流の音楽家による演奏を気楽に楽しむ。 竜丘小学校PTAと連携をとり開催している。 竜丘コーラスによるウェルカムコンサート、緑ヶ丘中学校吹奏楽部とのジョイントも実施。			評価	数量的成果 (項目名と数値) 竜丘コーラス約20名、緑中生徒約70名参加 【総括と今後の方向付け】 音楽への関心を高める機会となった。PTAと連携することによる小学校とのつながりに加え、今年はサクソフォンということで、緑ヶ丘中学校吹奏楽部とのジョイントを企画。中学校との新しい連携の場となると同時に、竜丘コーラスとのウェルカムコンサートと同様、より身近に音楽を感じてもらえる機会とすることができた。第1回から継続開催。地域住民にも定着しており、今後も継続していく予定。		
文化事業	いいだ人形劇フェスタ 竜丘地区公演		他会計	継続	1	2,488	2,488	6,907	8月5日～10日	竜丘公民館他
	目的	一般を対象に、人形劇を通じて文化活動の活性化を図るとともに住民の交流を図る。	実施内容	竜丘地区区内で19劇団による14公演を実施。 金曜日は「竜丘マラソン公演」と題し、竜丘公民館で多くの劇団による連続公演を行い1日中人形劇を楽しめる環境を作る。 各分館では交流会も実施し、劇人との交流を通して「人形劇のまち飯田」を知り、その意味を考える機会となる。			評価	数量的成果 観劇者数昨年との比較: 駄科△61、長野原△29、時又+68、桐林△26、上川(項目名と数値) 路+50、本館△162 【総括と今後の方向付け】 小中学生や親子に加え高校生のボランティアスタッフの参加など、地域の中でフェスタを盛り上げている。マラソン公演は地域に定着し、多くの人が楽しみにしている。 分館の公演にはBタイプの劇団が入り、人形劇のまちとして小さいころから質の高い人形劇に親しめる環境ができています。分館の負担感は大きいですが、「フェスタが人と人、人と地域のつながりを更に密接なものにしてくれる。」との感想も聞かれ、地域を見つめる場となっている。		
文化事業	竜丘地区成人式		他会計	継続	1		49	91	1月11日	竜丘公民館
	目的	成人を対象に成人自身が、社会的自覚と地域に対する理解と愛着をもてるような交流の場にする。	実施内容	(1) 地域を担う若者たちへの理解を深めるとともに、地域団体による太鼓演奏、料理、花火など、地域をあげて愛情をこめて新成人を祝う。 (2) 成人自身が、社会的自覚をもち、また地域に対する理解と愛着をもてる交流の場とする。 (3) 実行委員会を組織し新成人自ら企画運営に携わり、成人式を通じて、地域を知り、地域へ参画する第一歩となることを期待して行う。			評価	数量的成果 新成人49名、一般約40名、来賓5名、区長分館長等14名、(項目名と数値) おいしんぼプラザ20名、野楽路30名、スタッフ5名 【総括と今後の方向付け】 企画から司会進行まで新成人による実行委員が行い、和やかな雰囲気を実施された。実行委員として運営に携わった方にとっては、良い経験になったと感じている。 地域住民団体による演奏、料理、花火など、住民活動を知る場にもなり、併せて地域の社会教育団体一覧を配布することにより、今まであまり知ることの無かった大人の有志による社会教育団体というものを、身近に感じてもらい、興味を持ってもらう機会とした。		

竜丘公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	ニューイヤーコンサート		地区費	継続	1	600	600	6,907	1月25日	竜丘公民館
	目的	竜丘住民を対象に、大人から子どもまで楽しめる身近な催しとして、音楽をベースにした交流と芸術振興をはかる。	実施内容	(1) 大人から子どもまで楽しめる身近な催しとして計画する。 (2) 音楽をベースにした新年の交流の場とする。 (3) 竜丘在住のメンバーを中心とした音楽グループに呼びかける。			評価	数量的成果 (項目名と数値) 参加団体15団体(昨年比+2) 【総括と今後の方向付け】 子どもから大人まで様々な年代層の出演者による、多彩なジャンルの演奏に会場も盛り上がり、恒例となった最後の緑ヶ丘中学校吹奏楽部の演奏では、大人の学校の方々も一緒に踊り、会場全体が一体感に包まれる中、ふるさとの大合唱で幕を閉じた。 出演団体も多く、出演者と観客の出入りが激しかったが、全体としては大変盛り上がった。		
文化事業	竜丘地区文化祭		地区費	継続	1	1,000	1,000		11月8日・9日	竜丘公民館
	目的	竜丘住民を対象に、日頃の活動の成果を発表し、文化活動のさらなる活性化を図る。	実施内容	(1) 地区内団体、グループ、個人が日頃の活動の現状や成果を発表、交流する (2) 地域における文化活動を活発化させ、地区民の親睦を図る。 (3) 公民館と参加団体による実行委員会を組織して企画、運営にあたる。			評価	【総括と今後の方向付け】 分館単位でそれぞれ調査研究し、展示を行うことで、地域の事を学ぶ機会になっている。昭和26年～27年の記録映画竜丘村の発見を受け、上映するとともに、3名の方から当時の思い出や時代背景、竜丘のようすを語っていただき、地域の歴史を振り返り、知る機会とした。併せて当時使われた道具などの特別企画展を開催した。 また、公民館研修旅行で体験したスポーツ吹き矢を、体育委員会が中心となり文化祭内でも体験できる機会を設けた。非常に好評であり、今後の地域内での普及が期待される。 負担感もあり、2年に1度にしてはとの意見も聞かれるが、反省会では文化祭の発表や自己表現の場としての機能の面からとらえたり、「文化」の冠の下に老若男女が集う場であるとの意見も聞かれ、「文化祭」の意味を考え直す機会ともなった。		
文化事業	竜丘市民大学講座		市・地	継続	2	105		6,907	6/12、11/8	竜丘公民館
	目的	竜丘住民を対象に、学習意欲の向上を図り地域づくりの実践につなげていく。	実施内容	竜丘を学び今後の地域づくりに生かしていくことを目的に開催。 竜丘を見つめ直す機会とする。 第1回は環境委員会と共催とし、環境問題から地域を考える機会として、「省エネのコツと環境家計簿」と題して実施した。 第1回 6月12日 講師：中村秋男、小室勇樹 第2回は文化祭の中で記録映画竜丘村の上映と、当時を知る方々に歴史や竜丘の気風なども含めてお話しいただいた。 第2回 11月8日 講師：河井辰雄、塩澤義男、塚平清俊			評価	数量的成果 (項目名と数値) 第1回参加者：65名、第2回参加者：40名 【総括と今後の方向付け】 第1回における環境の講座は、地域自治会の環境委員会との共催で、新しい取り組みが行えたが、地域の課題や竜丘を考える機会としては企画不足であった。既存のふれあいハイキングや水辺の楽校などの事業と関連付け、地域の環境を考える機会となるような構成が必要だと感じた。 第2回の記録映画竜丘村では、3名の方に当時の様子やその背景、そして想いを語っていただいた。聴講者からは「とても良かった。毎年やってもいいのでは。」との意見もいただき、講師の方からも好評いただいた。今後は記録映画を活用し、地域の歴史を伝えたり、世代間交流等につなげる取り組みを検討していきたい。		
文化事業	ふるさと学習会		市・地	継続	5	200		6,907	4/29、5/12、11/24、3/6、3/21	竜丘公民館他
	目的	竜丘住民を対象に、地域を愛する人材を育成する	実施内容	様々な角度から地域を学び、地域を愛する人材の育成を目的に開催。 親子ふれあいハイキングおよび、公民館特別委員会の竜丘古墳の会による学習会を、ふるさと学習会として位置づけ、古墳の会の会員に限らず、地域に残る古墳を学ぶ機会として広く呼び掛け、実施する。			評価	【総括と今後の方向付け】 親子ふれあいハイキングをふるさと学習会に位置づけ、ハイキングだけでなく学びの要素を大きくして実施した。竜丘古墳の会学習会会長の小林正春氏による学習会をふるさと学習会に位置づけ、古墳の会会員だけでなく、多くの住民が竜丘の特徴である古墳を学び、親しみ、地域へ愛着を持つ機会とした。		

竜丘公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	夏季スポーツ大会		地区費	継続	1	150	150	6,907	5月25日	竜丘小学校校庭
	目的	竜丘住民を対象に、スポーツを通して健康維持と住民の交流を図る	実施内容	誰もが気楽に体を動かしながら親睦を深める機会として、ペタンクマスターズを実施。 各分館から3人1組で10チーム参加してもらい、総合優勝を決める。 空いたスペースを活用し、グランドゴルフの普及活動を行った。			評価	【総括と今後の方向付け】 世代をまたいで多くの住民と一緒に楽しみ、体を動かしながら親睦を深められる種目として、競技はペタンクに一本化して行った。子どもが計測して判定に携わるなどの光景も見られた。ペタンクもこの大会を通して普及してきている。応援の機会も設け、より親睦が深められる大会となった。 今年度はニュースポーツの紹介として、グランドゴルフを行った。ペタンク競技の合間に楽しむ姿が見られたが、より多くの人が楽しんでもらえるよう工夫が必要。		
体育事業	冬季スポーツフェスティバル		地区費	継続	1	150	150	6,907	12月14日	竜丘小学校体育館他
	目的	竜丘住民を対象に、スポーツを通して健康維持と住民の交流を図る	実施内容	多くの方に気軽に参加してもらえるよう複数の種目を取り入れ、子どもから大人までスポーツを通して交流を深める。 ニュースポーツを取り入れる。 ・種目1: ワンバウンドふらばーパレー ・種目2: 囲碁ボール ・紹介: スポーツ吹き矢			評価	【総括と今後の方向付け】 各分館で予選を開催し、勝ち抜いたチームが参加して実施している。分館内での交流と、分館同士の交流という点でも有意義な事業となっている。 ワンフラ、囲碁ボール共に和気あいあいと行われ、運営もスムーズに行えた。ワンフラでは年々参加者が上達しており、普及していることを実感した。 今後も多くの住民が交流し、体を動かす機会として実施していく。		
体育事業	竜丘市民運動会		地区費	継続	1	1,000	1,000	6,907	10月12日	竜丘小学校校庭
	目的	竜丘住民を対象に、運動会を通して住民同士、世代間の交流を図る	実施内容	(1) 大会、練習で多くの地区住民が集い、親睦、交流を図る機会とする。 (2) 誰もが参加でき、楽しめるよう種目内容を工夫する。 (3) 大会運営をスムーズに行い、時間どおりの進行に努める ・準備運動から整理体操までのすべての競技をすべて洗い直し、継続、改善、変更するものを検討。中学生に実行委員に参画してもら			評価	【総括と今後の方向付け】 競技検討の中で、減点で対応するか失格とするか、議論が行われた。運動会の本来の目的は親睦や交流であることを見つめ直す機会となった。 競技については反省事項等もあるが、概ね円滑に行うことができた。 今年から中学生ボランティアにピストルなどのより責任の重い役をお願いしたが、準備係や賞品係の仕事も含めて、責任感を持って積極的に関わってくれた。また、慰労会にも参加してくれるなど、勝敗だけでなく交流という面でもとても良い運動会となった。 小さい子どもの参加種目が少ない、中学生の活躍の場など、運動会の目的を踏まえて来年度に向け検討していく。		
広報事業	館報たつおか発行		地区費	継続	6			6,907		
	目的	竜丘住民を対象に、情報の提供と記録を目的とする。	実施内容	紙面を通じて、地区の動きがわかり、住民の心が触れあう館報づくり。 館報「たつおか」321号～326号(年6回、奇数月末)の発行を行う。 竜丘地域自治会のHPを活用した広報活動を推進する。			評価	【総括と今後の方向付け】 公民館活動や地域の取り組みなどを取材し、地域に対して周知を行うと共に、課題の提起など行っている。 見やすく親しみ易い紙面づくりに向け、広報委員の研修や、発行回数の検討を進めていく。		
育成事業	青少年クラブ運営		地区費	継続	360	58,320	162	600	通年	竜丘小学校他
	目的	竜丘住民を対象に、青少年クラブを通して青少年の健全育成を図る	実施内容	小中学生を対象とした青少年のクラブを支援する 各クラブは週に1回程度実施 代表者会の開催 講習会の開催: テーピング技術・AED・熱中症対策・応急処置講習会 募集チラシの配布等			評価	数量的成果 (項目名と数値) 優秀児童数28名、講習会参加指導者数2名 【総括と今後の方向付け】 緑中学校区3地区の合同の代表者会や講習会、募集チラシの作成など、中学校区を意識した活動を展開している。今後も小中連携一貫教育も意識した活動を展開していく。		

竜丘公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
育成事業	水辺の楽校		地区費	継続	1	391		6,907	5/18、7/27、8/24、9/7	竜丘水辺の楽校
	目的	実施内容	PTAと共催事業とする 草刈り作業はPTAや各種団体と連携し子どもも参加し行う。(校内作業とも連携) 草刈り作業等年4回、交流イベントでは自然体験学習、ニジマス焼き、魚のつかみ取りを行う。				評価	数量的成果 (項目名と数値) 参加者:整備作業①121名、整備作業②65名、整備作業③75名、イベント130 【総括と今後の方向付け】 草刈り作業からイベントまでをPTAと連携して行っている。自然体験が不足していると言われていた子どもたちに、イベントでは水辺の生物や昆虫の学習を行い、楽しむだけでなく、自然、環境についての理解を深め、親しんでもらう機会とした。イベント以外の活用についても検討していく必要がある。		
育成事業	古墳まつり		地区費	継続	1	237		6,907	6月8日	塚原二子塚古墳
	目的	実施内容	竜丘全体のまつりとして位置づけ古墳を今後どのように保存、活用していくかを考えるきっかけとする。 6年生の古代史の学習(古墳、埴輪等)の学習を支援を行うとともに、埴輪を作成し古墳まつりで野焼きを行う。 まつり当日は、埴輪作り、埴輪の野焼き、勾玉作り、火おこし体験、教育委員会による展示、塚原古墳群めぐり、古代食試食コーナー、富本銭レプリカ作り、花の植え付け等を実施。				評価	数量的成果 (項目名と数値) 一般:179名、スタッフ:58名 【総括と今後の方向付け】 昨年の反省を踏まえ、各種イベントの開催は円滑に行えた。竜丘古墳の会の協力で、近隣の古墳めぐりを行い、子どもたちに様々な古墳があり、その名前や特色などを伝える機会とした。今後の古墳の会の活動についても可能性が広がった。多くの主体が関わる事業であり、その交流や目的の共有を図り、竜丘らしい事業としていきたい。		
育成事業	竜丘あいさつ運動		地区費	継続	6	200	20	6,907	1/14日他計6日間	竜丘地区
	目的	実施内容	標語募集・選定、のぼり旗作成、あいさつ運動月間の周知、各分館であいさつ運動現地指導 (1) あいさつの大切さを見なおす機会とする (2) 大人と子どもがあいさつを通して安心安全な地域づくりを行う (3) できるだけ多くの団体と連携して実施する (4) 小学校のあいさつ旬間と連動させる。				評価	数量的成果 (項目名と数値) 小学生のあいさつ評価提出率 92% 【総括と今後の方向付け】 小学校児童会のあいさつ旬間と連動させ、PTA街頭指導日の1月14日を統一行動日としたことで、PTAと連携して地域全体であいさつ運動を展開した。また小学校の全校朝会で、あいさつについての話をする時間を設けていただくなど、小学校とも連携して取り組むことができた。小学生だけでなく中学生のあいさつがとても良かったとの声も聞かれた。ただし、時期的に3学期ではもったいないとの意見も出ており、もう少し早い段階での実施を検討していく。		
民俗資料保存	民俗資料保存事業		地区費	継続	12	120		6,907	実施内容参照	竜丘公民館他
	目的	実施内容	竜丘独自の委員会である民俗資料保存委員会が中心となり、地域の民俗資料の収集、整理、保存にあたっている 地域の有形・無形の民俗資料を後世に伝えるための、収集・保存活動を行うとともに、それらを広く地域に公開していく。 (1)民俗資料館の収蔵品整理・保存(随時) (2)民俗資料の維持管理 虫干し作業:7月27日(日) (3)公民館展示ブースへの定期的な展示 (4)発見された記録映画のデジタル化 (5)40周年記念事業の実施5月31日(土)				評価	数量的成果 文化祭記録映画上映等参加者40名、記録映画DVD販売数110枚、(項目名と数値) 40周年記念事業参加者数31名 【総括と今後の方向付け】 虫干しと資料館内の整理清掃を、丘のみちしるべ編集委員の協力を得て行い、維持管理に努めた。併せて、蔵の中の確認を小学校の先生と共にを行った。文化祭では記録映画たつおか村上映に合わせ、昭和20年代ごろに使用されていた養蚕や農機具などを展示した。 展示ブースへは、印刷の歴史を振り返る展示を行っている。 民俗資料保存委員会発足からH25年度で40周年となったことをふまえ、歴代の委員、公民館長、主事を招待し旧交を温めるとともに、今後の民俗資料保存事業についてなどの意見交換を行った。また、記念冊子として、民俗資料保存委員会で展示してきた文化祭の資料をまとめた冊子を発行した。		

竜丘公民館の事業報告

No.7

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
その他	丘のみちしるべ改訂		市・地	新規	50	500		6,907	通年	竜丘公民館他
	目的	実施内容	<p>竜丘の誇るふるさと教材である「丘のみちしるべ」は、発刊から10年以上が経過し、学校などから改訂の要望が出ていた。竜丘の現状を確認するとともに、地域を学び、小中学校との連携、人材育成の機会とした。編集委員会では、部会の会議や現地踏査を含めると、50回以上の会議を行った。</p>			評価	<p>数量的成果 (項目名と数値)</p> <p>【総括と今後の方向付け】 公民館委員を中心として、小中学校の先生方にも参加してもらい編集委員会を組織した。3つの部会を編成し、それぞれ作業を進めたが、進め方や取り組み方に差がでてしまった。編集委員個々の取り組み方にも差があったが、調査・編集作業をとおしてあらたな発見や、興味関心につながった事例もあり、人材育成という点ではある程度の成果が得られた。また、先生と住民が顔見知りとなり、話ができる関係を築くことができた。 来年度以降は、このふるさと教材の活用と、編集に関わった方が学んだ知識を活かす場をつくるなど、今後の展開を小中学校と連携して検討していきたい。</p>			
その他	塚原二子塚 古墳公園臼井川秘境遊歩道整備委員会		他会計	継続	3	160	80	6,907	5月24日、8月23日、10月18日	塚原二子塚古墳他
	目的	実施内容	<p>塚原二子塚 古墳公園臼井川秘境遊歩道整備委員会への参画</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 古墳公園化を視野に入れ、古墳の会の活動を通して、引き続き参画していく。</p>			
その他	放課後子ども教室		他会計	継続	50	1,000	52	405	毎週水曜日、第2第4月曜日	竜丘小学校他
	目的	実施内容	<p>地域の人材、資源を活かしたさまざまなスポーツ活動、文化活動、体験活動を取り入れながら、児童が楽しく遊び、学び、触れ合うことを通して、自主性や社会性、創造性を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自主的に遊べるような環境づくりに努めていく。 家庭、学校、地域の団体などできるだけ多くの大人に協力、参加を働きかける。 教室を通じて、参加する大人たちが一体となり、地域づくりにつなげていく。 安心、安全な居場所にする。 PTAはサポーターとして教室の運営を補助 			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 子どもたちの社会性や想像力を育てる点で、重要な事業である。保護者とスタッフとの意見交換会から見えてきた良い点は継続し、課題については解決に向け、さらなる取り組みが必要。意見交換会は継続的に実施していく。メニューの工夫や新たなスタッフ募集など、随時改善していく。</p>			

川路公民館の事業報告

No.1

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	乳幼児学級「すくすく学級」		市・地	継続	12	250	25	41	4月23日～3月11日	川路公民館
	目的	未就園児のいる家庭を対象に、子どもの社会参加促進と、親の育児を和らげることを目的とする	実施内容	講師：塩澤 敏子先生(保育士) 主任児童委員さん、地区住民有志の方にも参加いただいている。 4/22(火)「年間計画作成・親子遊び」 5/27(火)「図書館探検」 6/24(火)「仲良くなろう」 7/8(火)「保育園で遊ぼう(川路保育園ひよこクラブ合同)」 8/26(火)「みんなで遊ぼう」 9/30(火)「みんなでつくろう ～文化祭に向けて～」 10/28(火)「お散歩に行こう」 11/25(火)「みんなでお昼を食べよう ～トン汁づくり～」 12/10(水)「クリスマス会」 1/27(火)「絵本を楽しもう 講師：下沢洋子先生」 2/24(火)「おもちゃの話 講師：牧内秀子さん(2区)」 3/9(月)「文集作り・親子遊び」				評価	【総括と今後の方向付け】 参加年齢層が幅広いため、参加者全員対象の学習を考えてもなかなか的を絞ることがむずかしいが、親対象の学習要素を盛り込むよう努めている。また、乳幼児の親にとってはつながりをつくる機会のため、お互いの交流になるよう心がけている。 母子の健全発達はもちろんのこと、公民館としてはほとんどない若い世代が参加する事業であり、地域コミュニティの醸成という側面においても重要な役割を担っている。親が事業への単なる「参加」に留まらないような工夫が必要。	
学級・講座	さわやか健康教室		市・地	継続	10	270	27	27	4月18日～3月20日	川路公民館他
	目的	地区内の中高年を対象に、ウォーキングをはじめとする各種活動を通して健康づくりについて学習することを目的とする	実施内容	4/18(金)「かわらんべ周辺ウォーキング+総会」 5/16(金)「電車に乗って秘境駅ウォーキング(平岡)」 6/20(金)「グラウンドゴルフ」 7/18(金)「健康体操教室」講師：元飯田女子短期大学教授 田中美智子先生 9/19(金)「ぶどう狩り(今田平)」 10/17(金)「バスハイク：日本昭和村」 11/14(金)「下條村そばの城周辺ウォーキング」 12/19(金)「健康体操教室」講師：元飯田女子短期大学教授 田中美智子先生 2/20(金)「地区内ウォーキング」 3/20(金)「ウォーキング+年度末総会」				評価	【総括と今後の方向付け】 ウォーキングを主活動とし年間通じて活動をしているが、その中にウォーキング以外にもニュースポーツや健康体操、企画段階で出た要望なども盛り込み、楽しみながら健康づくりができるようその都度参加者の意図を反映させた形をとっている。メンバーの高齢化が進んでおり、参加メンバーの固定化、休会しているメンバーも目立つようになり、今後の体制維持が課題。	
学級・講座	歴史文化セミナー		市・地	継続	11	187	17	17	4月23日～3月18日	川路公民館
	目的	各種開発事業で地域が変貌する中、後世に残していくべきもの「①道路・交通②水路・溜池・河川③井戸・湧水」の調査・記録・保存を目的とする	実施内容	基本月1回のセミナーで、これまでの調査結果の集約を進めており、川路地区文化祭にて調査結果を発表。また、写真などの映像資料による保存も検討中。				評価	【総括と今後の方向付け】 メンバーが小グループに分かれて各自担当部門の調査・まとめを進めており1冊の本にすることを考えているが、具体的にどのようなスケジュールでどのようなものにするのかは今後検討していく。 昨年より新たなメンバーを迎え、活動の中から出てきた興味や疑問に応じて研修を計画するなど自立した活動を展開しているが、高齢化により出てこれなくなったメンバーもあり、今後のメンバー確保について検討の必要がある。	

川路公民館の事業報告

No.2

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	遠足倶楽部		市・地	継続	3	30	15	15	5月26日～10月5日	川路地区内外
	目的	地区住民を対象に、地区内外のウォーキングを通して健康づくりを促すとともに、地域の歴史や自然について学ぶことを目的とする	実施内容	講師：今村公人氏 5月26日「深緑の臼井川秘境と開善寺古道を歩こう」 6月7日「ササユリを見に行こう」 10月5日「初秋の治部坂・蛇峠の森林を歩こう」(台風により中止)			評価	【総括と今後の方向付け】 地区有志メンバーでしっかり歩きながら、地区内講師の指導のもと自然や歴史を学び、目的地にて皆でお弁当を食べる。「歩く」という行為に楽しみや学びの要素を加えることで、地域の語り部の育成にも貢献している事業になっている、相談しながら不定期での開催だが、地区内ウォークを取り入れるなど身近で参加しやすいところも盛り込みながら進めたい。		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	歴史文化講座		市費	新規	1	20	20	1,981	2月28日	川路公民館
	目的	地区民を対象に、川路地区の歴史・文化について知る機会をつくる	実施内容	歴史文化セミナーメンバーと相談し、川路に昔から祀られている石仏についての講座を計画。 「川路に祀られた閻魔様の話」 講師：飯田市上郷考古博物館前館長 岡田正彦先生 併催：絵歴史文化セミナー研究成果発表会			評価	【総括と今後の方向付け】 地元で祀っている石仏の意味や、この地域にかつてあった信仰が、今では習慣のみ残り忘れられていることなどをする機会となった。事前に打ち合わせを兼ねて講師の先生に来ていただき、川路地区内の現地視察をしたこともあり、川路の視点を多分に盛り込んだ講座となった。		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	人権教育講座		市費	継続	1	120	120	120	11月19日	川路小学校
	目的	小学生を中心とする川路地区住民を対象に、人権意識の啓発を図る	実施内容	小学校と共催。小学校の授業時間に全校生徒を対象に開催。地域内に回覧し、地区住民も参加可能な事業。 テーマ「死ぬまで元気で川路で生きる」 講師：特定非営利活動法人さろんあやめの皆さん ①さろんあやめの紹介 ②お年寄りの気持ちになってみよう(高齢者体験) ③さろんあやめのアクティビティ体験 ④職員としての想い			評価	【総括と今後の方向付け】 地域福祉を支えるために地域で立ち上げ活動をしているさろんあやめの皆さんにお越しいただき、日々の活動の話や職員の皆さんの想いを語っていただいた。近所のおじさん・おばさんが介護に取り組む姿やその仕事を選んだ想いを伝えてもらい、子どもたちが飽きないように、さろんあやめで高齢者がやっているアクティビティを盛り込むなど工夫をしていただき、また、高齢者体験をしてもらうことで、高齢者の気持ちになって考えること、ひいては自分以外の人のことを考えて行動することを学んだ。地域の方の想いを子どもたち伝えていく場づくりができたと感じる。		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	学友林学習事業		市・地	継続	5	150	30	100	5月12日～3月	川路小学校学友林
	目的	川路小学校の児童対象に、自然環境との共生を考える機会とする	実施内容	小学校と共催。 講師：今村公人氏 他地区有志の皆さん 5月12日 学友林ササユリマーキング(5・6年生対象) 6月3日 学友林沢のぼり(2・3年生対象) 7月10日「学友林枝打ち・間伐体験 兼 薪づくり」(5年生対象) 11月11日「学友林で遊ぼう」(2・3年生対象) 11月23日「小学校収穫祭」(5年生対象) 3月「学友林作業兼4・5年生引き継ぎ」実施予定			評価	【総括と今後の方向付け】 5年生を中心とし、その時々で都合の合う地区有志の方々に関わってもらい実施。年間通して学校の先生と相談しながら、次回はいつ何をやるか決めている。活動の発展系として、先生からの希望でこれまでなかった2・3年生の関わりが生まれ、作業や飯ごう炊さんといった例年の流れに加え、「先輩が整備した学友林で遊ぶ」といった展開につながった。地区有志の方により、自然素材をつかった簡単なアスレチックを作ってみることができ、保育園や乳幼児学級でも学友林に行ってみるなどの波及効果が生まれている。今後も地域の方、学校の先生と一緒に考えながら継続していきたい。		

川路公民館の事業報告

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
【再掲】	川路通学合宿(ムス大学事業)	市・地	新規	1	84	84	100	6月10日～14日	天龍峡温泉交流館
【再掲】	目的 川路地区内の住民・保護者・教師らが一堂に会し、地域で子どもを育てる環境づくりに向け協働で取り組む	実施内容 主管:通学合宿準備委員会 期間:4泊5日 対象:川路小学校5・6年生希望者27名 場所:天龍峡温泉交流館 ねらい:日常生活の延長を子どもたちが協力して送る中で「親子の自立」 「多様な人との交流、つながりづくり」 「生活リズム、生活習慣の立て直し」 の3つの達成を目指す。	評価 【総括と今後の方向付け】 2年前の川路の明日を考える研究集会からの流れが形になった取組。少子高齢化・過疎化の中で、誰もが帰ってきたい、住みたい、住みやすい地域をめざし、大人も子どももその想いを育むための「地域で子育て」をする場として実施。企画～運営～振り返りまで地域の大人、保護者、先生方など多様なメンバーで行い、地域の子どもに関するお互いの想いや課題意識をしっかりと共有したうえで検討を始めた。4泊5日という期間の中で子どもも親も地域の大人も先生も様々なことを経験し、地域のつながりを育むことができたように感じる。今後もこの取組を定着、継続していくために、無理することなく、しかし「想い」をきっちりと伝えながらひとつひとつみんなで積み上げていくプロセスを大切にしていきたい。						
区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
【再掲】	第62回天龍峡夏期大学(ムス大学事業)	市・地	継続	4	348	87	1,981	7月17日～8月2日	川路公民館
【再掲】	目的 地区民を中心とする参加者を対象に、教養を高め現代的な課題を考えるきっかけ作り及び川路地区住民の地域への誇りを高めることを目的とする	実施内容 主催:飯田市公民館 主管:川路公民館 各界の著名人・第一線で活躍されている方を講師として招き講座形式で開催。 7月17日 第1講(人材育成)「人を育てる -選手育成の現場から-」 講師:北野建設スキー部ゼネラルマネージャー 荻原健司先生 参加者数:95 7月18日 第2講(子育て)「遊びは『生きる力』のみなもと ～教育から遊育へ」 講師:NPO法人日本冒険遊び場づくり協会理事/大正大学人間学部特命教授 天野秀昭先生 参加者数:70 7月19日 第3講(時事)「国際報道の現場からみた飯田下伊那」 講師:共同通信社編集局論説副委員長 矢高則夫先生 参加者数:65 8月2日 第4講(健康)「今日からできる認知症予防」 講師:東京都健康長寿医療センター研究所研究員/心理学博士 宇良千秋先生 参加者数:118 実参加者数:204人	評価 数量的成果 (項目名と数値) 講座に参加して「身になった」と答えた人の割合:97.84% 【総括と今後の方向付け】 伝統を踏襲しつつ、保護者世代の地域参加を促すことをねらって実施。4講座中2講座を「子育て」の分野の話とし、組み立てでは保護者世代、小学校の先生、子育て支援課や飯田の子育て支援団体の方々と話しながら進めた。結果として、これまで当事業に参加の薄かった30～40第が全体の20%余りを占める参加となった。単発の事業ではなく、川路の明日を考える研究集会や通学合宿といった共通テーマでの発展的事業展開を図ったことにより、「今まで知らなかった、ぜひ続けてほしい」とか「これまで自分たちが参加していい事業と思っていなかった」など、地域の中の保護者世代の居場所が徐々にできつつある感触を得た。ただ、参加者の数は一時的勢いに比べるとかなり落ち込んでおり、どのように夏期大学を位置付けていくのかしっかりと考えながら組み立てをしたい。						
区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
【再掲】	第26回川路の明日を考える研究集会(ムス大学事業)	市・地	継続	1	78	78	1,981	2月8日	川路公民館
【再掲】	目的 川路地区住民を対象に、今地域で課題となっていることについて意見を交換し、課題共有化を図る	実施内容 主催:川路まちづくり委員会 主管:川路公民館 テーマ:「未来への種まき ～川路通学合宿を振り返って～」 ①川路通学合宿の報告 報告:者準備委員会座長 長谷部智子さん ②話題提供:通学合宿に取り組む川路地区への期待 発表:東京大学特任助教 荻野亮吾先生 ③意見交換:みんなで考えよう 未来への種まき 7グループに分かれ意見交換 司会進行:各分館長・主事 書記:東京大学の皆さん	評価 【総括と今後の方向付け】 地域と子育て世代のつながりを育み、これまでなかった保護者世代の声を拾い、また参加を促すことをねらって実施した。その世代を中心に、地域の誰もが自分に関わることとして考えられる「子ども」をテーマに据え3年目の取組。今年度始めた川路通学合宿からの流れを作り、結果として参加者の4割が30～40代の保護者世代となった。往年の参加者層と新たな参加者層が一つのテーブルで話すことでつながりの意識が生まれ、アンケートからはそれぞれの世代が刺激を受けたことがうかがえた。また、延長保育や2年に1回の運動会の持ち方など、地域として考えていきたい関心事も出てきたことから、これをまた次の展開へつなげたい。また、今回は東京大学の先生および学生の皆さんにご協力いただき、グループワークの書記として地域のみなさんと一緒に参加していただいた。そとの方からの視点やまとめる力により、参加者の胸に落ちる内容の研究集会になったように思う。						

川路公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	いいだ人形劇フェスタ2014		他会計	継続	4	479	120	1,981	8月5日～8月10日	川路公民館・川路小学校・温泉交流館
	目的	より多くの参加者が楽しみながら芸術に親しむことができるようにすることを目的とする	実施内容	<p>公民館、小学校PTA、保育園保護者会、教育育成委員会、観光協会が川路地区実行委員会を組織、3会場を分担して運営。昨年度に引き続き、全会場でスタンプラリーを実施。また、図書分館の協力にて、有料公演観劇電車ツアーを実施(今年で7年目)。</p> <p>8/7 川路公民館:とらまる人形劇団「なきむしもたろう」「ぶ～ん、ちゃりん」</p> <p>8/8 電車ツアー:人形劇団パン「ジャックと豆の木 ほか」</p> <p>8/9川路小学校:川路小学校3年生「11ぴきのねこ」人形劇団やまんば「どうながのプレッツェル」</p> <p>8/10温泉交流館:劇団YUI「YUI君のお楽しみ劇場」人形劇団あつかんべ「三びきのこぶた」</p>			評価	<p>数量的成果 アンケートで「満足」以上と答えた人の割合:82% (項目名と数値)</p> <p>【総括と今後の方向付け】 川路地区は木曜～日曜の開催。劇団との連絡調整等を各会場の責任者に行ってもらい形にし、当日を迎える前から劇人と会場スタッフとの関わりができたことで、当日運営もスムーズに運ぶことができた。また、今年で7年目となる電車ツアーは川路小学校の児童達にとって恒例の行事となっている。今年は保護者有志の方にも引率をお願いし、子ども達も楽しみながら無事終えることができた。これまでは実行委員会も実務的な内容を協議する会議がメインだったが、次回以降の持ち方を検討したい。</p>		
文化事業	川路地区文化祭		地区費	継続	1	600	600	1,981	10月19日	川路小学校
	目的	地区民を対象に地域を知り、愛着心を育むことを目的とする。	実施内容	<p>運動会と隔年開催。 展示・芸能発表・模擬店の3部門で構成。 地区内の組織・団体、グループ・サークル及び個人の活動発表の場。 テーマ「広げよう 深めよう 地域の絆」 ～今年度の特徴～ ①クイズ・スタンプラリー 参加者が会場全体を周り、文化祭の最後まで残ってくれることをねらって実施。クイズは会場内にある出展作品等に関する問題をつくり、会場を周れば答えが分かるよう工夫。全6個のスタンプを集めて応募してもらい、文化祭の最後で大抽選会を実施。 ②川路の企業展 広報部が館報の企画として取り組んでいる「企業訪問」との連携事業。地区内2会社(柴田科学・小林コンサルタント)にブースを設けてもらい、実演コーナーをつくった。 ③昔の川路上映会 家庭科室にて、愛郷賦や天龍峡の唄などをBGMIに、昭和30年代～の川路の様子を映した8mmフィルムをDVD化したものを上映。</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 前回の反省を活かし、展示レイアウトを一部変更、芸能発表も含めてより一体感の出るよう考えた。盛り上がりをつくるための試みや広報部会と連携した企画の実施など工夫した文化祭となった。各種団体の高齢化等にもない、参加団体が年々減少傾向にある。また、他の事業にも共通して言えることだが、「川路全体のお祭り」ではなく「公民館の事業」という捉えがあり、地域内での縦割り感がある。文化祭への参加者の増加、ひいてはこの文化祭を川路の活気づくりの一助とするためにも、あくまで文化部中心で考え実行していくが、ねらいや方向性、方法について、他の部会やまちづくり委員会からも積極的に意見をもらい、川路のお祭りとして取り組んでいきたい。</p>		
体育事業	分館対抗ソフトボール大会		地区費	継続	1			1,981	9月7日	竜峡中学校グラウンド
	目的	川路地区住民を対象に、体を動かす機会を設けるとともに地区内の親睦を深める目的で実施。	実施内容	<p>毎年恒例の事業。より幅広い世代に参加してもらう為、助成枠や50歳以上枠などを設け実施している。 雨天により中止。</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 年齢制限や性別制限の枠を緩め、若い世代を中心により多くの人が参加できる形を検討したが雨天により中止。次年度以降は「スポーツ」としてというよりも「地域の色々な世代がわいわい集まれる大会」として、応援等での参加も含め呼びかけをおこなっていきたい。</p>		

川路公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	ニュースポーツ大会		地区費	新規	1	77	77	1,981	1月18日	竜峡中学校体育館
	目的	川路地区住民を対象に、ニュースポーツに親しんでもらい、交流を図ってもらう目的で実施。	実施内容	老若男女問わず気軽に行うことのできるニュースポーツの大会として、分館交流の形式で実施。 子どもの部を設け、囲碁ボール大会を併催。 優勝:3分館 準優勝:4分館 3位:フレンズ			評価	【総括と今後の方向付け】 昨年度まで実施していた事業を精査し、ソフトバレー大会を廃止、ワンバウンドふらば～るバレーを通した分館の交流という位置づけとした。また、ニュースポーツの普及を図るため、子どもの部として囲碁ボールを用意し実施。参加者の確保のためにこれまでオープン参加形式だったものを分館交流としたことで、昨年度まで類似の事業に参加していたサークル等に情報が回らず出られないという事態が起きてしまった。囲碁ボールは子どもたちの楽しむ姿が見られ、手が空いた大人が興味を持ってやってみるなどの広がりを見せた。		
体育事業	分館対抗バレーボール大会		地区費	継続	1	84	84	1,981	6月22日	竜峡中学校体育館
	目的	川路地区住民を対象に、体を動かす機会を設けるとともに地区内の親睦を深める目的で実施。	実施内容	毎年恒例の事業。女性が参加しやすい体育事業という位置づけで一般成人女子のみのチームとしているが、近年は参加できる女性が減少してきたため、条件付きで中・高校生女子、一般男性の参加も認めている。 優勝:8分館 準優勝:7分館 3位5分館			評価	【総括と今後の方向付け】 10代～20代の若い世代の参加が見られた。女性中心の数少ない体育事業であるため、今後も新しい参加者の確保を図っていききたい。今年度からより広い世代の参加を考え、中高生の女子の参加枠を拡大して実施。ただ、例年秋に実施していたものを6月に動かし、大安の日曜開催で結婚式が多く重なり、出られない人が増えてしまったことが残念。		
体育事業	分館交流マレットゴルフ大会		地区費	新規	1	76	76	1,981	5月25日	上川路・8区マレットゴルフ場
	目的	川路地区住民を対象に、気楽にスポーツに親しんでもらい、交流を図ってもらう目的で実施。	実施内容	地域のお年寄りも参加できる体育事業として今年度新規で企画。 男女それぞれのリーグをつくり個人戦。			評価	【総括と今後の方向付け】 初めての試みであったが、この日に向けて練習をする人が出るなど、今までなかった年齢層が体を動かすよい機会となった。練習参加者からは「こういう機会でもないと会わない人と話ができた」などの声も聞かれ、ある区では、この大会をきっかけに「うちの区でもやりませんか？」という動きにつながったとのこと。終了後に表彰式と併せてお茶飲み会を設定したこともあり、良い交流の場となった。		
広報事業	館報「かわじ」発行		地区費	継続						
	目的	公民館事業報告や地域のイベント紹介だけでなく、地域課題を取り上げ、住民が自分たちの地域について知り、考える機会の提供を目的とする。	実施内容	公民館事業報告や地域のイベント紹介だけでなく、地域課題を取り上げ、親しみやすく、読みやすい「川路の今」を伝える館報作りを目指す。 シリーズ企画:「川路の企業訪問」 6/25 館報225号:事業計画 他 9/24 館報226号:天龍峡夏期大学、人形劇フェスタ、通学合宿 他 12/24 館報227号:川路地区文化祭 他 3/24 館報228号:成人式他 予定			評価	【総括と今後の方向付け】 公民館や地区内行事を中心に取り上げて作成した。これまで依頼記事中心でつくっていたが、前年踏襲のイベント報告的なものではなく「今載せるべきものは何か」を考え、今年度は取材を盛り込んだ。また、昨年の研究集会でも取り上げた「若者が帰ってくる地域」の視点を盛り込み、川路にあるが地域にあまり知られていない企業を訪問、取材しシリーズ企画として連載。今後は、公民館報から情報発信だけでなく、問題提起をしていけるような紙面づくりをしていきたい。		

川路公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	川路地区成人式		他会計	継続	1	91	91	130	1月11日	川路公民館
その他	目的	川路新成人を対象に、自分の生まれ育った地域を知りその良さを発見・再認識する機会となることを目的とし、地域をあげてお祝いする。	実施内容	<p>まちづくり委員会主催、成人式実行委員会主管 企画・運営は公民館の企画会議メンバーで行う。 「地区をあげてお祝いする成人式」という考えのもと、地区内にある団体の長にも参列していただくことで、新成人達に「地域の一員」であると感じてもらえるような形にしている。</p> <p>特徴： ・地区での実施は式典のみで、その後竜峡中学校区単位での祝賀会へ。 ・比較的小規模な式典となるため、式典内で新成人ひとりひとりに自己紹介と将来の夢を話してもらう機会を設けている。 ・「一枚の写真」スライド上映。事前に親からメッセージと写真を頂き、当日サプライズとして行う。 ・今年度は対象者に川路地区出身の力士「伊那の富士」がおり、初場所のため欠席であることを受け、親御さんたちの協力のもとビデオレターを作成、式典内および竜峡中学校祝賀パーティーにて上映した。 ・式典終了後にタイムカプセルを開封。</p>			評価	<p>地域の大人、親世代、新成人と世代を越えて向き合うことができる数少ない機会になっている。そして、式典を通して皆が同じものを共有できる場でもある。今回は地域学習の組み立てに関して地区の方々のアイデアをいただき一緒に組み立てたり、式典内でも親御さんのアイデアを盛り込むことができた。企画運営に関して、地域をあげての成人式という意味でも、公民館の委員だけで組み立てるのではなく、新成人や親御さん、地域の方々の知恵や想いを盛り込めるような展開が図れると良い。また、小中高校生や社会人として活躍しているここ数年の新成人など若い世代とつながりをつくれる機会でもあるので、そういう方向への展開も考えたい。</p>		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	世代間交流事業		市費	継続	4	240	240	1,981	12月21日・12月23日	4・5・7・8分館
その他	目的	川路地区民を対象に、多世代の交流と伝統文化の継承を図る	実施内容	<p>各分館で実施するしめ縄・おやす作り講習会を支援している。 4・5・7・8分館にて、高齢者クラブや子ども会との共催とし、伝統文化を通して地区のお年寄り子ども達の交流を図っている。</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 分館単位で実施することで、各区とも多くの参加者を得ることができている。また、各区の高齢者管部・子ども会と連携することにより世代間交流を図るとともに、「しめ縄・おやす作り」という伝統継承にも繋がっている。今後もこの事業が継続されるよう、支援をしていきたい。</p>		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	絵手紙講座		市・地	継続	1	20	20	100	12月21日	川路公民館
その他	目的	川路地区の高齢者および子どもを対象に、毛手紙を通じた世代間の交流を深め、家族のコミュニケーションを増進させる	実施内容	<p>社会福祉部会、絵手紙クラブとの共催。 川路絵手紙クラブに講師を依頼し、指導を受けながら絵手紙を作成する。 当日子ども達が作成した絵手紙は、地区内の独居高齢者へ年賀状として送る。</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 主管は社会福祉部会の事業。地域の子どものと独居老人の間つなぐを育むという取組の意義はあるが、公民館は予算面での支援にとどまっておき、今後どのように関わっていけるか検討していきたい。</p>		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	健康講演会		他会計	継続	1	28	28	1,981	8月23日	川路公民館
その他	目的	川路地区内の高齢者を対象及び高齢者のいる家庭の家族を対象に、健康づくりに対する関心・意識を持ってもらうことを目的とする	実施内容	<p>主催：健康福祉委員会 テーマ：糖尿病発症予防・重症化予防について 講師：健和会病院 糖尿病専門医 熊谷悦子先生</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 健康福祉委員会が主体となり取り組む事業。アンケートでは回答者の約半数が「本人または家族の血糖値が高め、または糖尿病治療中」と回答しており、本当に必要としている人たちが参加してもらえる講演となったように感じる。公民館は印刷物や広報での協力にとどまっておき、次年度以降、できれば企画段階から一緒に組み立てるなどの連携を図りたい。</p>		

三穂公民館の事業報告

No.1

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	乳幼児学級「みほ・なかよし学級」		市・地	継続	12	135組	11組	36組	4月30日～3月6日	三穂公民館ほか
	目的	0～3歳児とその親を対象に、子育てや生活習慣についての学習、遊びの機会を提供するほか、参加者同士の交流の場とする	実施内容	保育士：澤柳敬子さん、コーディネーター：林明子さん(主任児童委員) 4/30(水)「年間計画作り、手遊び、絵本の読み聞かせ」 5/21(水)「動物園へ行こう」(雨天の為、つどいのひろばへ参加) 6/18(水)「子どもの急病&救急法」講師：市立病院看護師 7/30(水)「プールで遊ぼう」 8/22(金)「つめた～い夏のおやつを作ろう」講師：飯田市栄養士 9/18(木)「消防署見学へ行こう」(飯田消防署) 10/15(水)「大きな布で遊ぼう & 赤ちゃん体操」 11/20(木)「クリスマスの準備しよう」12/17(水)「クリスマス会」 1/22(木)「いちご狩りへ行こう」(喬木村) 2/23(月)「絵本で楽しもう」講師：下沢洋子さん 3/6(金)「手形足形をとりょう・反省会」			評価	【総括と今後の方向付け】 0歳～3歳までの親子が学び、交流できる機会として開催している。スタッフは保育士のほか、主任児童委員、保育園長、保健師、公民館長、公民館主事が必要に応じて関わる。対象者も比較的少数で、交流も図りやすく、発育や子育ての話など、個々へのケアもしやすいため、小規模だが充実した活動が行えている。親同士の交流や文化祭への参加などを通して、地域とのつながりを作る場としても重要であり、継続して実施していきたい。課題としては0歳～3歳合同のため、親子での運動、屋外活動などは、低年齢の親子が参加しづらい場合もある。今後もねらいをしっかりと持ちつつ共に、参加者の声を聴きながら計画を立て、行っていきたい。		
学級・講座	乳幼児のひろば		地区費	継続	50	253組	5組	36組	4月1日～3月31日 毎週金曜日	三穂公民館
	目的	0～3歳児とその親を対象に、参加者同士の交流や情報交換を図る	実施内容	毎週金曜日の午前10時から公民館を開放し実施。地区内の乳幼児と親の自主的な交流、遊びの場、情報交換の場としている。また、今年度は2回、親子で行う運動教室を行い、乳幼児学級では行っていないメニューを体験してもらえる場とした。地区担当保健師と連携して実施。			評価	【総括と今後の方向付け】 乳幼児学級に比べてより自主的な活動となっており、参加者同士のつながりも強い。参加者の固定化という課題もあるが、今後も乳幼児とその親が交流を深め、つながりを作る空間として実施していきたい。		
学級・講座	家庭教育講座		市費	継続	1	80	80	1,524	11月7日	三穂小学校
	目的	地区住民、子どもを持つ親を対象に、教育、子育て、子どもの健全な成長、安全、安心につながる学習を行う	実施内容	家庭での教育、子育て等について学習する機会。小学校、PTA、子ども育成、公民館が共催。今年は家庭における防災意識について親子で考える場とし、小学校4・5・6年児童、保護者、学校職員、一般住民が参加 講師：飯田ボランティア協会 理事長 大蔵 正明 氏 演題：「親子で家庭で高めよう！ 防災・減災の心構え」			評価	【総括と今後の方向付け】 今年度は防災の有識者を講師に迎え、家庭で普段から親子一緒に考えておきたい防災の意識についての学習を、大人だけでなく三穂小学校の4、5、6年生も参加して行った。今後も各種団体と話し合う中で、課題を出し合い、家庭、地域、学校における子育てや教育の向上につながる取り組みを進めていきたい。		
学級・講座	高齢者学級		市・地	継続	1	7	7	542	11月23日ほか	三穂公民館ほか
	目的	高齢者を対象に、学習と交流の機会の提供、生きがいづくりや知恵、技術を地域の中で活かしていく場とする。	実施内容	・講座 11/23 地域学習「下條歌舞伎定期公演鑑賞」7人 ・世代間交流 12/20 正月飾りづくり 子ども育成委員会と共催 12/24 保育園児と角松、おやす作り ・その他 囲碁ボール体験、講習（3団体で実施） ニュースポーツフェスティバル囲碁ボール交流大会への参加（1団体）			評価	【総括と今後の方向付け】 高齢者の学習、生き甲斐づくり、高齢者クラブの活性化等が目的。計画時に代表者と打ち合わせを実施。世代間交流事業は知恵や技術を継承する場となった。また、囲碁ボールは飯田市の大会へ高齢者クラブが参加した。次年度については各高齢者団体における活動の充実の両面から支援を行っていく。		
学級・講座	三穂の自然探訪 自然観察会		地区費	継続	2	21	10	1,524	4月12日、6月21日	三穂地区内
	目的	地区住民を対象に、自然や環境問題などについて学び、地域の環境と我々の暮らしについて考える機会とする。	実施内容	三穂の豊かな自然と、希少な動植物について学習、環境委員会と共催。 ・「春の花を見る会」4月12日(土)9:00～ 講師：北城 節雄 氏 内容：飯田下伊那の春の花についての講義、現地観察 参加：10人 ・「ササユリを見る会」6月21日(土)9:00～ 講師：北城 節雄 氏 内容：ササユリと初夏に見られる花についての講義、現地観察 参加：11人			評価	【総括と今後の方向付け】 今回の講座は、三穂の豊かな自然を学び、地域の環境に関心を持ち、大切な財産として残していこうという意識を高める事を目的に実施した。環境委員会と共催。小学生の参加もあり、地域学習の良い機会になった。今後についても、地域を知り、地域の将来を考えられるような取り組みを行っていく。		
文化事業	やまびこマーチチェックポイント運営		地区費	継続	1	150	150	150	4月26日	小笠原資料館
	目的	やまびこマーチ参加者を対象に、地域住民でもてなすとともに三穂地区の文化に触れてもらう。	実施内容	三穂地区で活動する女性グループ「あじさい会」の皆さんと共に、飯田やまびこマーチの40キロコース、小笠原資料館チェックポイントの運営を実施。 内容：チェックポイントの運営、湯茶等の提供、書院の見学			評価	【総括と今後の方向付け】 三穂地区の貴重な文化財、旧小笠原家書院を、ウォーカーの皆さんに知ってもらう機会とするとともに、りんご、漬け物等、地元の味によるもてなしを行っている。次年度についてもあじさい会と協力して運営を行っていく。		

三穂公民館の事業報告

No.2

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	真陽地区との交流事業IN真陽		地区費	継続	1	34	34	1,524	5月24日、5月25日	神戸市真陽地区
	目的	三穂地区住民を対象に、神戸市真陽地区住民との交流の中から、互いの地域づくりを学ぶとともに、住民同士の交流を図る	実施内容	交流を通じてお互いの地域づくりの実践を学び合う活動。「真陽フェスティバル」や「地区全体での津波避難訓練」など、真陽地区の地域活動から、震災から復興を遂げた、住民が強いつながりを持った地域づくりを学び、併せて震災、防災学習の機会とした。また、三穂地区の出店を参加者全員で行い、協力・相互援助の体験の中から住民連帯を確認する機会とした。 期日：5月24日(土)～25日(日) 場所：神戸市真陽地区 参加：34人(大人26人、小学生5人、中学生3人) 内容：「真陽フェスティバル」への出店参加(五平餅、山菜の販売) 真陽地区住民との交流会 真陽地区の防災の取組みの学習会、市街地散策		評価	【総括と今後の方向付け】 一般住民、各種団体役員、消防団幹部、小学校教諭、小学生、中学生が参加。真陽フェスティバル参加は19回目、長年の交流で顔見知りも多く、三穂の五平餅や山菜を楽しみにしてくれている。今年は剣道クラブの子どもと保護者も出店した。住民交流会では、真陽地区の皆さんと再会を喜び合い、交流を深めた。翌日は、真陽小学校内の地域活動スペースで、真陽地区の津波防災の取組みと要援護者支援のお話を聞いた後、各所に掲示してある防災の表示を見ながら実際に避難場所まで歩き、真陽地区の地域のつながりと防災を根本に据えた地域づくりを学んだ。交流20年を迎え、当時の思いや交流で学んだことを引き継ぎ、開始当時を知らない若い世代にも関心を持ち参加してもらおうかが課題。今後も未来を担う小・中学生の参加を呼び掛け、目的を確認しながら、ほそく永い交流を行っていく。			
文化事業	ふるさとコンサートin三穂		市・地	継続	1	70	70	1,524	7月20日	三穂公民館
	目的	地区住民を対象に本物の音楽にふれることで、音楽を身近に感じ、芸術文化に対する興味関心を高める機会とする	実施内容	子どもから大人まで誰もが気軽に来場でき、本物の音楽にふれることで、芸術文化への興味や関心を高める機会として開催した。地区で活動する「合唱団 愛」との共演も行った。スタッフとして文化委員、女性委員が運営。 出演：サクソフーン四重奏「サクソフーンカルテット 桜」 共演：三穂合唱団 愛		評価	【総括と今後の方向付け】 子どもから高齢者まで、幅広い年代の住民が来場し生の音楽を楽しむことができた。地区の合唱団との共演や以前出演したチェリストの弘田徹氏の特別参加もあり、内容の濃いコンサートとなった。演奏会後は、お重に詰めて持ち寄った家庭の味で交流した。今後も芸術や文化への関心を高める機会としていきたい。			
文化事業	いいだ人形劇フェスタ 三穂地区公演		市・地	継続	2	225	112	1,524	8月6日、8月10日	三穂公民館
	目的	地区住民を対象にいいだ人形劇フェスタをみる・えんじる・ささえることを通じて人形劇文化や地域文化への理解を高める機会とする	実施内容	2会場2公演を文化委員会を中心に実行委員会を組織し行った。水曜日は旧小笠原家書院を会場に行い、伊豆木人形の保存継承に取り組む伊豆木人形クラブとアマチュア劇団が出演、旧小笠原家書院のライトアップや小笠原家にまつわる話の朗読等もあわせて行った。日曜日は公民館を会場に、地元小学校劇団とプロ劇団が上演し、家族などを含め多くの来場があった。 ・8月6日(水) 19:00～ 旧小笠原家書院 伊豆木人形クラブ：「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」 人形芝居めい遊：「がまの油」 書院ライトアップ、竹宵設置、小笠原家の話の朗読、資料館特別開館 ・8月10日(日) 10:00～ 三穂公民館大会議室 三穂小学校3年 劇団Nine(9)：「ももたろう」 人形劇団ポポロ：「がまくんとかえるくん」		評価	【総括と今後の方向付け】 8月6日の公演は旧小笠原家書院を会場に、伊豆木人形クラブとアマチュア劇団のジョイント公演を行った。来場者、地区住民に旧小笠原家書院を三穂地区の大切な財産としてあらためて意識し、考えてもらいたいという願いから、市から書院の指定管理を受け活用について検討しているまちづくり委員会、小笠原書院管理人、図書館三穂分館と公民館が初めて一緒に運営を行った。結果として旧小笠原家書院や伊豆木人形といった地域の歴史、文化について共に考える事の出来る良い機会になったと感じる。8月10日の公演は、公民館を会場に三穂小学校3年生の劇団とプロ劇団とのジョイント公演を行った。今年もいずれの公演にも地元劇団が出演し、地域文化の発展、みる・えんじる・ささえるの理念を実現するためにも意義深いものとなった。8.10の交流会では女性委員が各家庭の味をお重に入れて持ち寄り、三穂地区ならではの交流会を行った。今後も、日時、場所、企画等について、実行委員会で検討し実施していきたい。			
文化事業	三穂ふれあい夏祭り		地区費	継続	1	200	200	1,524	8月10日	三穂公民館
	目的	地区住民を対象に地域の連帯意識を高め、住民同士の交流を図る	実施内容	人形劇フェスタ、こどもまつり、ふれあい夏祭り(宵祭り)を同日に開催。文化委員会を中心に、参加する各種団体が実行委員会体制をとり実施。 8/6 宵々まつり 人形劇フェスタ三穂地区公演 8/10 第一部(午前) 人形劇フェスタ三穂地区公演 第二部(午後) こどもまつり(子ども育成委員会主催) ・流しそうめん ・カンカンフェス(アイス作り) 第三部(夕方) ふれあい夏祭り(宵祭り) 台風のため中止		評価	【総括と今後の方向付け】 住民がつくり上げ、参加し、楽しむ、地域の夏祭りとして定着し、地域の一体感を感じられる場となっている。人形劇フェスタ地区公演やこどもまつりも夏祭り的一部分として組み込み、一日を通して楽しめる事業となっている。今年度は台風接近のため、宵祭りを中止し、予定されていた屋台、ステージ、盆踊り、花火等は実施できなかった。今後も多くの地域住民が参加し、地域に対する愛情や住民の連帯感を感じ、育むことのできる事業となるように、内容を検討して実施していきたい。			

三穂公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	ふるさとめぐり三穂		市・地	継続	1	150	150	1,524	10月25日	三穂地区内
	目的	実施内容	ふるさと三穂の歴史や文化、自然を学びながら地区内を歩く。小学校、小PTA、子ども育成委員会、公民館の共催。小学校では地域を学ぶ授業として登校日にしている。小学生は居住地区ごと毎年違うコースを歩き、数年かけ三穂全域を学ぶ。見学場所では住民講師が解説を行い、文化委員がクイズを出題。親子で歩き、絆を深める結いタイムの活動としても位置付けている。 ・打合せ9月3日 ・コース下見10月8日 ・コース整備10月18日 立石寺コース 妙正寺、雄杉雌杉、立石発電所、仁王門、立石寺、日枝神社 夜明山コース 夜明堤、夜明山、八丈岩、菊の原、柳枝、お観音様、八幡宮 下瀬コース 砧峠、下瀬しあわせ村、大泉寺・瘡守稲荷、ほていの竹の林 貝沢コース 興徳寺、天満宮、観音堂、うなり岩、丸山公園、小笠原書院			評価	【総括と今後の方向付け】 地域の団体と小学校が共催して実施している。公民館では子どもから大人まで、幅広い年代が参加する地域学習の機会として捉え、文化委員会が当日の運営を行うほか、コース整備作業等も協力して実施している。参加者は、地区内をウォーキングしながら普段の生活ではゆっくり見ること、感じる事のない地区の自然や文化に接し、見学場所では地域の資源を目の前に、地元講師から説明を受けることで、自らの暮らす地区について学び、愛着を深める機会となっている。長年続いてきている事業だが、協働する各団体が事業の目的や役割、責任などについて毎年確認、共有した上で実施していくことが必要である。また、近年は一般参加者が減少しており、小学生保護者以外の大人の参加について考えていく必要がある。			
文化事業	真陽地区との交流事業IN三穂		地区費	継続	1	120	120	1,524	2月7日、2月8日	三穂公民館ほか
	目的	実施内容	三穂地区と真陽地区との交流を通じて住民同士がお互いの地域づくりの実践を学び合う活動。文化祭前日に真陽地区住民が来飯し、見学、交流会を開催、翌日の文化祭では出店を行ってもらい交流を図った。交流会の料理は参加者による一重持ち寄りで行い、三穂の家庭の味、地域の味でもてなした。 期日:2月7日(土)~8日(日) 場所:三穂公民館ほか 参加:真陽地区住民 21人、交流会に参加した三穂地区住民 100人 内容:(1日目)駒ヶ根シルクミュージアム見学、住民交流会 (2日目)三穂文化祭への参加(関西風うどんの販売)			評価	【総括と今後の方向付け】 初日は、養蚕の展示がある駒ヶ根シルクミュージアムを見学、その後公民館で住民交流会を行った。料理は参加者が一重家庭の味を持ち寄り、三穂の食文化に触れてもらうことができた。翌日は真陽地区の皆さんが文化祭に「関西風うどん」を出店し、来場者と交流した。本交流は「ほそく永く」を合言葉に、無理せず自然体で続けていくことを毎回確認してきている。交流20年を迎え、当時の思いや交流で学んだことを引き継ぐとともに、改善や新たな取り組みについても検討しながら、より住民主体の交流が進むようにしていきたい。			
文化事業	三穂文化祭		地区費	継続	1	600	600	1,524	2月8日	三穂公民館、三穂保育園
	目的	実施内容	地区内で活動する各種団体、個人、学校関係の作品・活動等の展示、芸能発表、催し、出店を実施。文化委員会を中心に、参加各団体が実行委員会体制をとり実施した。前日に展示準備を実施。 展示 …水墨画、書道、写真、絵画、工作、活動報告、啓発 など 芸能 …吹奏楽、人形劇、落語、大道芸、合唱、民謡、詩吟 など 催し …抹茶手前、図書館臨時開館、大抽選会 など 出店 …五平餅、そば、こんにやく、豆類、うどん(真陽地区) など			評価	【総括と今後の方向付け】 地区内の活動団体による発表の場である。展示物はそれぞれに工夫がされ好評であった。芸能発表では、竜峡中学校の吹奏楽部、小学校3、4、5年生の参加があり、大変盛り上がった。また、出店には真陽地区のみなさんも参加し地区民との交流の場となった。図書館三穂分館も臨時開館し利用促進のきっかけとした。今後とも地域活動の発展につながるよう文化祭の目的を確認しながら、内容等を検討して実施していきたい。			
文化事業	文化セミナー		地区費	新規	1	9	9	1,524	3月8日	満蒙開拓平和記念館
	目的	実施内容	文化的な側面から地域の皆さんに学んでもらいたい内容を、毎月の文化委員会でも検討し、広く地区民から参加者を募って実施した。 「満蒙開拓平和記念館見学」日時:3月8日(日)13:00~ 内容:満蒙開拓に関する映像鑑賞、解説付き展示見学 参加:9人			評価	【総括と今後の方向付け】 戦争、平和、人権をテーマに、飯田下伊那からも多くの人が参加した満蒙開拓について学ぶ機会とした。今後も文化委員会発の地域学習の機会として、委員会でテーマや内容を検討し、広く地区住民に参加を呼び掛けて実施していきたい。			
体育事業	ニュースポーツ月間		地区費	継続	3	53	17	1,524	通年	公民館、集会所など
	目的	実施内容	各組合で体育委員が呼びかけ、ニュースポーツ講習や大会を開催し、住民への普及を図る。期間の指定はなく組合毎に期日を設定。 6/29 第13組合 囲碁ボール 7/27 第3組合 囲碁ボール 1/18 第5組合 囲碁ボール			評価	【総括と今後の方向付け】 ニュースポーツの普及や組合内の親睦を目的に、各組合の体育委員が主導して実施する取組みで、種目の指定はない。各組合で年1回の実施を目標としているが達成できていない。今後は、より多くの組合で取り組みが進むよう、検討を行っていく必要がある。			

三穂公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	ワンバウンドふらば～るバレー大会		地区費	継続	1	80	80	1,524	6月15日	三穂小学校
	目的	実施内容	<p>地区住民を対象に、ワンバウンドふらば～るバレーを通じ、運動不足の解消、健康の増進と、住民同士の親睦を図る</p> <p>体育委員会で要項の検討を行い、各組合からの参加チームを募集し、予選・決勝リーグ方式の組合対抗戦を行った。7つの組合から10チームが参加。子どもや運動経験の少ない人でも比較的取り組みやすいニュースポーツであるワンバウンドふらば～るバレーの普及をめざして開催。 優勝 第13組合B 準優勝 第2組合A 第3位 第13組合A</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 継続して大会を開催することで、次第に地区内へ浸透してきていると感じる。今年度は13組合中7組合の参加にとどまっておらず、今後も、ニュースポーツ講習や大会などを通して普及を進め、より多くの組合に参加してもらえるよう、体育委員会で検討しながら実施していきたい。</p>			
体育事業	マレットゴルフ大会		地区費	継続	1	36	36	1,524	7月27日	三穂マレットゴルフ場
	目的	実施内容	<p>地区住民を対象に、マレットゴルフを通じ、運動不足の解消、健康の増進と、住民同士の親睦を図る</p> <p>体育委員会で要項の検討を行い、各組合から参加者を募り、個人戦及び組合対抗戦を行った。7つの組合から36人が参加。マレットゴルフを通じた健康づくりと親睦を行うとともに、地元で管理している三穂マレットゴルフ場の有効利用を図り、各組合の活動で利用してもらうためのPRも兼ねて開催。 (団体の部)優勝 第13組合A 準優勝 第7組合A 第3位 第7組合B</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 地域で管理する三穂マレットゴルフ場が完成して以来、施設の有効利用も目的として公民館主催の大会を開催している。参加者は地区のマレットゴルフクラブ員から、経験のない人まで様々だが、楽しみながらラウンドしていた。今後も多くの組合から参加者が得られるよう、検討しながら実施していきたい。</p>			
体育事業	お盆ソフトボール大会		地区費	継続	1	150	150	1,524	8月15日	三日市場運動公園
	目的	実施内容	<p>地区住民や帰省者を対象に、ソフトボールを通じ運動不足の解消、健康の増進と、住民同士の交流を図る</p> <p>体育委員会で要項の検討を行い、参加チームを募集。組合チームと、三穂クラブ(シルバーソフト)の計12チームが参加し、三日市場運動公園の多目的グラウンドで予選リーグ、決勝トーナメントを行った。住民の交流と組合の親睦、お盆の帰省者や地区外に居住の三穂出身者が参加できる場として開催。8月1日には、三穂クラブの有資格者を講師に、審判講習会も実施した。 優勝 第13組合 準優勝 第10組合 第3位 第2組合、第11組合</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 お盆に合わせて開催するため、帰省した三穂出身者の参加もあり、懐かしい顔が揃うのを、毎年楽しみに参加する人も多い。コート4面を確保できる三日市場の多目的グラウンドで行い、予選をリーグ形式とすることで、各チーム2試合以上行ってもらえた。今後は、現在出場していない組合にも参加してもらえるよう、検討して実施していきたい。</p>			
体育事業	三穂地区市民運動会		地区費	継続	1	700	700	1,524	10月12日	三穂小学校
	目的	実施内容	<p>地区住民を対象に地域の連帯意識を養うと共に健康への感心を高め、住民相互の親睦を図る</p> <p>地区内13の組合による対抗戦。得点種目と、幼児、小学生、中学生、高齢者など、各年代を対象とした自由参加種目を実施。まちづくり委員会役員、公民館委員、組合選出など運動会実行委員130人が、進行、出発、決勝、監察、賞品、準備記録、放送、接待、救護、交通整理、庶務の各係に分かれて運営する。今年度は、昨年全世帯を対象に行った運動会に関するアンケートの意見をふまえ、競技方法、種目の見直しを6月の体育委員会から継続して行い、種目の統合、選手の選出条件の緩和、複数組合がチームを組んで参加する種目を増やすなど、より参加しやすい運動会に向けて取組みを行った。9/17運動会実行委員会 10/5用具の確認、得点版作成 10/11前日準備 優勝 第1組合 準優勝 第6組合 第3位 第13組合</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 地域の一大行事として行い、子どもからお年寄りまで多くの地区民が一堂に会して同じ空間を共有することで、三穂地区の連帯意識を育み、地域の元気を発信する場となっている。組合対抗で実施することにより、生活集落である組合内の団結も高まる。家族の絆、組合の絆、地域の絆を確認し、高めていくために重要な事業である。今年度は、アンケートの「少子化で選手の選出が困難」、「50代、60代が参加できる種目を増やして」、「スピードを競うなど競技性が高い種目の見直し」といった意見から、体育委員会で内容の大幅な見直しを行った、今までの区対抗種目は、くじ引きで編成したチームによる対抗種目とし、種目数も拡大、参加者からは普段一緒になることの少ない組合と協力でき、楽しかったとの声もあった。今後も、多くの人が参加しやすい運動会をめざし、体育委員会でこれからも検討を行っていく。</p>			
体育事業	冬季ニュースポーツ大会(囲碁ボール)		地区費	継続	1	60	60	1,524	2月1日	三穂公民館
	目的	実施内容	<p>地区住民を対象にニュースポーツを通じて冬季の運動不足解消、身体を動かす楽しさを実感してもらい、住民同士の親睦、交流を図る</p> <p>体育委員会で要項の検討を行い、参加チームを募集。予選・決勝リーグ方式の組合対抗戦を行った。7つの組合から12チームが参加。寒い冬季でも室内で行え、子どもから高齢者まで体力に関係なく一緒に行えるニュースポーツである囲碁ボールの普及をめざして開催。 優勝 第13組合B 準優勝 第9組合 第3位 第3組合</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 運動不足になりやすい冬季に、家族や組合の仲間と気軽に参加できるニュースポーツの大会を開催している。種目は、天候に左右されず、室内で行える囲碁ボールを行い、親睦を深めつつ競技できた。少人数でも参加できるよう2人からチームを組めるようにしているが、不参加の組合もあるため、今後は、より多くの組合に参加してもらえるよう、検討しながら実施していきたい。</p>			

三穂公民館の事業報告

No.5

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	ニュースポーツ講習会		地区費	継続	1	29	29	52	4月29日	三穂公民館
	目的	公民館委員を対象に、ニュースポーツの普及と委員同士の交流を図る	実施内容	公民館委員総会にあわせ、囲碁ボールの講習会を開催。体育委員長とスポーツ推進委員からルール説明を受けた後、公民館委員がチームを作って対戦。 講師：体育委員長、スポーツ推進委員			評価	【総括と今後の方向付け】 子どもからお年寄りまでできるニュースポーツ、囲碁ボールを、各組合の交流活動を推進する公民館委員に体験してもらい、地区内への一層の普及を図った。今後も委員対象のスポーツ講習などを行っていききたい。		
体育事業	地区内スポーツ団体との交流		地区費	継続	2	20	10	52	9月22日	三穂小学校
	目的	地区内スポーツ団体と公民館委員を対象に、親睦、交流を図り、地域の体育振興につなげる	実施内容	地区内で活動するスポーツ団体と公民館委員との交流を実施。体育委員はブロックママさんソフトボール大会の審判にも協力。 8/31 Dブロックママさんソフトボール大会 審判協力、交流会 9/21 ママさんソフトボールクラブとの交流 交流試合、交流会			評価	【総括と今後の方向付け】 公民館委員とママさんソフトの交流試合では、体育委員を中心にチームを作って対戦し、交流を深められた。今後も地域のスポーツ振興のため、地域のスポーツ団体との交流を行っていききたい。		
体育事業	ニュースポーツフェスティバルへの参加		地区費	継続	1	20	20	1,524	11月2日	飯田市勤労者体育館
	目的	地区住民と公民館委員を対象に、ニュースポーツの普及、浸透を目指す	実施内容	公民館委員と地区住民を対象に飯田市ニュースポーツフェスティバルへの参加者を募集し、囲碁ボール交流大会に4チーム、ワンバウンドふらば～るバレー交流大会に2チームが参加。 囲碁ボール 1チームがコート優勝 ワンバウンドふらば～るバレー 1チームがコート優勝			評価	【総括と今後の方向付け】 いずれも公民館で大会を行っているニュースポーツ。囲碁ボールには高齢者クラブ2団体のチームも参加した。地区を越えた交流大会に出場することで、さらなる幅が広がった。参加をきっかけに地区内でのよりいっそうの普及につなげていききたい。		
体育事業	地区内体育施設の整備作業		地区費	継続	2	30	15	1,524	4月27日、3月25日	地区内体育施設
	目的	地区内の体育関係施設を対象に、整備、維持管理を行い体育振興につなげる	実施内容	スポーツ関係団体と協力して実施。地区住民によりよい環境の中でスポーツを楽しんでもらい、地域のスポーツ振興につなげることが目的。 4月27日 三穂マレットゴルフ場整備 コース補修、清掃 3月25日 体育館整備 清掃、ワックスかけ			評価	【総括と今後の方向付け】 地区民が利用する体育施設を、地域で整備、維持作業を行い、地域のスポーツの発展につなげたいとの思いから、体育委員会が主導して行っている。今後も関係団体と協力しながら取り組んでいきたい。		
広報事業	館報「みほ」の発行		地区費	継続	6	144	8	1,524	通年	三穂公民館
	目的	地区住民、一般市民を対象に地区の動きや課題を発信し、関心を高め、記録として残すことを目的に行う。	実施内容	地区の動きや課題を幅広く紹介し、知ってもらい、地域への関心を高める。発行650部 地区内全戸配布、希望する地区外居住者へ発送 第231号 5/31 平成26年度活動方針、真陽フェスティバル参加ほか 第232号 7/31 ふるさとコンサート、新婚さん、ほっとけない楽習会ほか 第233号 9/30 人形劇フェスタ、ふるさと三穂会、防災訓練ほか 第234号 11/30 市民運動会、家庭教育講座、ふるさとめぐり三穂ほか 第235号 1/31 成人式、新春放談会、子ども育成事業ほか 第236号 3/31 文化祭、真陽交流会、各委員会活動反省ほか			評価	【総括と今後の方向付け】 地域の動きに目を向け、地域住民をはじめとする読者にわかりやすく伝えること、地域の記録として残していくことを意識し、取り組むことができた。事業報告や地域スポーツの結果などに加え、地区内で行われた特徴的な取り組みや人物なども取り上げ、読みごたえのある紙面作りを目指すことができた。今後は、記事を通じて地域の課題を提起し、みんなで共有し、考えていけるような内容を盛り込みつつ、より地域の役に立つ館報を目指していききたい。		
広報事業	新春放談会		地区費	継続	1	15	15	94	1月11日	三穂公民館
	目的	地区在住の年男、年女を対象に、自らの抱負や地域への思いを語ってもらい、将来について考える機会とする。	実施内容	三穂在住の年男、年女の皆さんを対象に、新年に開催している。対象者へ通知して参加募集し、昭和18年(72歳)、昭和30年(60歳)、昭和42年(48歳)の8名の参加があった。自らの今年の抱負、地域の将来への思いなどについて語り合う機会とした。広報委員が準備および進行を担当し、館長が話題提供者として参加。			評価	【総括と今後の方向付け】 個人的な今年の目標から、地域振興住宅と若者居住、空き家問題など様々な話題で語り合う中で、参加者の皆さんの地区への愛情を感じることができた。年齢や役職を超え、一住民として話し、他人の意見をじっくり聞く機会は貴重である。今後も地区の皆さんが語り合う場を大切にしていきたい。		

三穂公民館の事業報告

No.6

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
広報事業	三穂地区ホームページ・ブログの更新	地区費	新規		11	11	1,524	通年	
	目的 地区住民、一般市民を対象に地区の新鮮な話題を発信し、関心を高めることを目的に行う。	実施内容 三穂地区ホームページ・ブログで地区の新鮮な話題を発信する。広報委員、まちづくり委員会役員が、地域の出来事を記事として投稿。	評価 【総括と今後の方向付け】 館報には掲載されない地域の話題なども投稿し、住民の地域への関心を高めるとともに、遠方の三穂出身者や一般市民に対する情報発信やPRの場としている。今後は、よりいっそう更新維持の努力が必要。						
女性委員会	ほっとけない楽習会	地区費	継続	3	84	28	1,524	6月26日、10月19日、3月3日	三穂公民館ほか
	目的 地区住民を対象に普段感じている不安や心配事、興味、関心事を、女性の視点、生活者の視点で取り上げ、地域全体で課題の共有を図る	実施内容 普段の生活の中で感じている不安や心配事、興味、関心事など、大切と思っているがなかなか学ぶ機会がない内容を女性の視点、生活者の視点で拾い出し、講座を開催、地区全体で関心を高めてもらう。 ・第1回「プラス10分動いて生活習慣病予防」6月26日(木)19:30～ 講師:健康運動指導士 小林 新一 氏 内容:日常生活の中でできる健康づくりのための運動 参加:37人 ・第2回「山梨を巡るバスの旅」10月19日(日)6:30～ 内容:リニア見学センター、忍野八海、富士山五合目ほか 参加:22人 ・第3回「避難所運営ゲームをやってみよう」3月3日(火)19:30～ 講師:飯田市危機管理室防災係長 後藤 武志 氏 内容:避難所運営シミュレーション、解説 参加:25人	評価 【総括と今後の方向付け】 第1回「プラス10分動いて生活習慣病予防」は、健康福祉委員会と共催で実施した。飯田市が推奨しているプラステン(+10分運動しよう)の取り組みを紹介し、日常生活の中でもできる運動について学んだ。第2回「山梨を巡るバスの旅」では、山梨県を訪れ、リニア見学センターでは、2027年に開業し飯田市にも駅が利用できるリニア中央新幹線について学び、忍野八海、富士ビジターセンター、富士山五合目では世界遺産富士山について学んだ。第3回「避難所運営ゲームをやってみよう」では、継続して取り組んでいる家庭や地域における防災をテーマに、大災害の際に住民の生活の場所となる避難所運営についてシミュレーションし、解説を聞くことで、防災意識を高める機会となった。今後も地域の声を捉え、女性の目線で身近な課題を拾い出しながら取り組んでいきたい。						
女性委員会	女性委員研修会 料理講習会	地区費	継続	1	20	20	14	5月20日	三穂公民館
	目的 公民館女性委員を対象に郷土料理などの講習と、委員相互の交流を図る	実施内容 公民館の一重持ち寄りの重箱を持参する際のヒントになる料理についての講習会を実施。調理後は作った料理を囲んでの交流会を行った。 講師 三穂地区食生活改善推進協議会 内容 簡単にできる楽しい料理(新生姜ご飯、焼きキャベツのスープ仕立て、他)	評価 【総括と今後の方向付け】 三穂では交流会などを一重持ち寄りで行うことが多い。そこで、食改の皆さんを講師に料理講習会を行った。年度最初の事業として委員同士の交流、親睦を深めることもできた。今後も郷土料理の講習などを行っていききたい。						
女性委員会	女性交流スポーツ大会(ソフトバレーボール)	地区費	継続	1	80	80	794	9月28日	三穂小学校
	目的 三穂地区の女性を対象に女性同士の交流を深め、組合内、他の組合との親睦を図る	実施内容 女性委員会では要項を検討し、委員が中心となって組合毎にチームを編成、トーナメント戦を行った。10の組合から14チームが参加。種目はトリムボールを使用したソフトバレーボール。女性だけが参加対象のスポーツ大会は地区内では他になく、地区内の女性の交流と親睦を目的として開催。 優勝:第2組合B 準優勝:第13組合A 第3位:第1組合、第13組合B	評価 【総括と今後の方向付け】 女性委員会主催のスポーツ事業。普段体育事業に参加しない人や若い人など、組合を越えて女性が集まり交流する良い機会となっている。次年度以降も、女性委員会の目的の一つである女性の学習と交流をよりいっそう進めるために、委員会で検討して実施したい。						
女性委員会	公民館各種事業への参画	地区費	継続	7	70	10	14	通年	
	目的 公民館女性委員を対象に公民館全体また各委員会が主管する各種行事へ、参画してもらうことにより、地域活動への関心を高める。	実施内容 公民館の各種事業に対し女性委員会として主体的に参画 ・7月20日(日)ふるさとコンサート 一重持ち寄り、交流会担当 ・8月9日(土)飯田りんご三穂連への参加 ・8月10日(日)人形劇フェスタ三穂地区公演 一重持ち寄り、交流会担当 ・10月12日(日)三穂地区市民運動会 ・2月7日(土)真陽交流IN三穂 一重持ち寄り、料理調理(日赤と合同) ・2月8日(日)三穂文化祭 おにぎり、さば寿司の注文販売 ・3月8日(日)公民館年度末大掃除への参加	評価 【総括と今後の方向付け】 他の委員会からの依頼という受け身の姿勢ではなく、事業計画に位置付け、女性委員会の事業として積極的に取り組むことができた。各種事業の中で女性委員の活躍する姿も多く見られ、委員同士が協力して活動する中から、交流が深まり、まとまりのある組織として充実した活動が行えた。今後も、女性委員会が、女性が地域活動に積極的に関わる先導的な立場を担っていくことが期待される。						

三穂公民館の事業報告

No.7

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
企画事業	救急救命法講習会		地区費	継続	1	29	29	52	4月29日	三穂公民館
	目的	公民館委員を対象に、救急救命に関する知識と技術の習得を図る	実施内容	公民館委員総会に合わせて救急救命法の講習会を実施。基本的な知識の講義の後、AEDトレーナーを使った講習を受講した 講師：伊賀良消防署山本分署署員			評価	【総括と今後の方向付け】 公民館事業での事故や急病などの際の対応訓練として一般救命講習を行った。今後も委員対象の講習などを行っていききたい。		
企画事業	公民館委員研修視察旅行		地区費	継続	1	7	7	52	1月24日～1月25日	広島県
	目的	公民館委員を対象に、視察を行い、地域づくりの学習や、新たな課題の発見の機会とする。	実施内容	公民館企画委員会で計画し、全委員会の意見を聞いて実施。和歌山県を研修視察先とし、世界文化遺産の熊野古道・熊野那智大社、高野山金剛峯寺を見学。歴史文化についての学習の機会としたほか、委員相互の親睦を深めた。			評価	【総括と今後の方向付け】 和歌山県の研修視察を通して、歴史文化に関する学習の機会となった。また、委員の親睦の機会としても重要であり、次年度はより多くの委員の皆さんに参加してもらえるよう、行き先、内容を検討し、実施したい。		
その他	伊豆木人形の継承		地区費	継続	24	264	11	1,524	第2・第4水曜日	三穂公民館ほか
	目的	地区住民を対象に、伊豆木人形の保存、継承を図るとともに、地域の伝統文化への理解を高める	実施内容	「伊豆木人形クラブ」を組織し、三穂地区に伝わる伝統人形浄瑠璃、伊豆木人形の再興、保存継承に向けて取り組んでいる。地区住民、小中学生からクラブ員を募集し、月2回程度の練習を実施。上演演目は2題。今年は長野県地域発元気づくり支援金を活用し「寿 式三番叟」の独自音源の作成を行った。 ・8月6日 人形劇フェスタ三穂地区公演「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」 ・8月23日 天竜峡夏の和に遊ぶ 和楽器に触れてみよう「寿 式三番叟」 ・12月23日 三穂宅老所まめだに「寿 式三番叟」 ・1月11日 三穂地区成人式「寿 式三番叟」 ・2月8日 三穂文化祭「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」 講師：今田人形座 木下 文子 氏			評価	【総括と今後の方向付け】 伝統芸能の復活と継承活動を通じ、地域資源としての価値を高め、地域づくりの糧としたい。今年は旧小笠原書院を活用した上演や、寿式三番叟の音源作成など伊豆木人形としての独自性を高める活動も行った。現在クラブ員は小学生4名、中学生4名。将来、伊豆木人形の継承活動の中心になってもらいたい。今後も小中学校を通じたPRなど、継続して活動するためのクラブ員の確保に取り組みたい。また、大人の参加に向けた声かけも必要。練習活動に加え地域内外で上演し「伊豆木人形」をアピールしていく必要がある。以前「伊豆木人形クラブ後援会」が発足したが現在は機能しておらず、地域側の支える仕組みの検討が必要。自主的継続的な活動となっていきよう、公民館としても後押ししていく。		
その他	いいだ人形劇フェスタ 感激☆バスツアー		市・地	継続	1	28	28	70	8月7日	飯田市民館ほか
	目的	小学生を対象に質の高い人形劇の鑑賞するとともに、市街地の人形劇フェスタの盛り上がりを経験する機会とする。	実施内容	有料公演の観劇と人形劇フェスタの雰囲気を経験できるバスツアー。プロ劇団の公演と、フェスタで賑わう街中の様子を体験し「人形劇のまち飯田」を肌で感じてもらう機会とした。図書館三穂分館奉仕係がスタッフとして参加。 ・さんさん劇場「わ・わ・わ・わっしょい！！／わらしべ長者」市公民館3階 ・劇団かかし座「魔法使いのおとぎばなし」市公民館4階			評価	【総括と今後の方向付け】 バスで飯田市街地へ向かい、有料公演を午前、午後の計2公演観劇した。昼食は橋北公民館の会議室をお借りした。会場周辺ではフラワーガーデンを見学したり、おいなんよサロンで婦人会の方々とふれあうなど、フェスタの雰囲気を十分楽しむことができた。参加者も多く、好評であったので、次年度以降も実施について検討		
その他	三穂地区成人式		市・地	継続	6	12	12	16	10月4日～1月11日	三穂公民館
	目的	新成人を対象に、地域を挙げて成人を祝福し、成人としての自覚を持つ機会とするとともに、新成人が地域を学び、地域デビューする機会とする。	実施内容	新成人実行委員会を組織して活動。地区在住の2人が参加。成人式を自ら作り上げることで、成人としての自覚を持ち、地域学習を通して、地域に対する愛情や関心を高め、文化祭や夏祭りなどの地域行事にも参加してもらう。式典では公民館企画委員会、まちづくり委員会役員が準備・運営に関わり、地域を挙げて成人を祝福した。 ・三穂地区成人式…1月11日(日)13:00～ 新成人参加者12人 祝舞(伊豆木人形「寿 式三番叟」) 式典(祝辞、新成人自己紹介、新成人代表あいさつ、乾杯ほか) 新成人企画(家族からのビデオメッセージ) ・地域学習…三穂の干柿について、新成人の実家で学習、次年度の夏祭りになどに参加予定 ・その他…竜峡中学校区の成人祝賀パーティ実行委員として活動、準備から運営までを実施			評価	【総括と今後の方向付け】 実行委員会に新成人2人が参加し、成人式の企画検討、地域学習、記念誌の原稿作成など、積極的に活動を行うことができた。式当日は公民館企画委員、まちづくり委員会役員が準備や運営に参画、恩師や地区来賓を迎え、地域全体で成人を祝う式典という姿を大切に実施した。伝統文化の伊豆木人形の披露や、新成人全員が将来の夢と成人としての思いを話す場面を設け、また、新成人実行委員が撮影、編集を行った家族からのビデオメッセージが放映され、思い出に残る式典になったと感じる。成人式をきっかけに、地域へ目を向けてもらうため、成人式後も、文化祭や夏祭りといった地域活動への参加を呼び掛けていく。次年度も、早い時期に実行委員会態勢を整え、地域と成人が一体となって作り上げる成人式をめざしていきたい。また、ここ数年で成人式を迎えた人などが一緒に活動し、若者同士のつながりを作れるような機会を設けることができるとよい。		

山本公民館の事業報告

No.1

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	乳幼児学級(なかよし広場)		市費	継続	18	430	23	5,141	通年	山本公民館
	目的	0~1歳児とその親を対象に①子育てに必要な知識の習得、②親子のふれあい・運動、③母親同士の交流・仲間づくりを図る	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食、健康、危険防止等のテーマ学習 ・絵本の読み聞かせ、外にお出かけ ・ミニ運動会、身近にある物やわらべ歌を使った運動 ・公民館開放、各種交流会 ※保健課と共催 			評価	【総括と今後の方向付け】 講師、保健師に総合的なプログラムを作成してもらい、学び・遊び・交流とバランスのとれた学習内容を提供できた。また、母親が安心して楽しめる内容も取り入れることもでき、毎回安定した参加者数があった。		
学級・講座	乳幼児学級(ちびっこ広場)		市費	継続	24	335	14	5,141	通年	山本保育園ほか
	目的	2~3歳児とその親を対象に①子育てに必要な知識の習得、②子どもの集団の中での学び(社会性)、③母親同士の交流・仲間作りを図る	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食、健康、危険防止等のテーマ学習 ・山本、さくら保育園において未就園交流 芋苗植え、水遊び、焼き芋大会、もちつき大会 ・公民館開放、各種交流会(なかよし広場と共通) ※保健課と共催 			評価	【総括と今後の方向付け】 保育士・保健師に総合的なプログラムを作成してもらい、遊び・学び・交流とバランスのとれた学習内容を提供できた。入園前に保育園の雰囲気や施設を知り、他の園児や同年代の子ども達との関わりを持つことができるので、つながりを深める良い機会だと考えているが、参加者数が少ないという現状があるため、次年度は在り方を少し見直す必要がある。		
学級・講座	キッズ山本大作戦音楽フェスタ		市・地	継続	1	500	500	5,141	11月9日	山本小学校体育館
	目的	音楽というツールを用いて地域に愛着を持ってもらう活動を展開する。また、山本地区外の団体と連携してPRすることにより、地区外への波及効果を狙い、この活動を通じて、近い将来飯田市民吹奏楽団への入団希望者の確保に繋げる。	実施内容	キッズ山本大作戦推進委員会主催、山本公民館・飯田市民吹奏楽団共催で開催した。また、旭ヶ丘中学校吹奏楽部、伊賀良小IGRSOUND、キッズ山本大作戦コーラス隊の代表者を加え、実行委員会体制をとり企画・運営を行った。 ○旭ヶ丘中学校吹奏楽部、伊賀良小IGRSOUND、飯田市民吹奏楽団のコーラポレーションによる東京オリンピックファンファーレの吹奏 ○旭ヶ丘中学校吹奏楽部、伊賀良小IGRSOUNDによるコーラポレーション演奏 ○旭ヶ丘中学校吹奏楽部、伊賀良小IGRSOUND、飯田市民吹奏楽団・阿智高校によるコーラポレーション演奏 ○キッズ山本大作戦コーラス隊による合唱 ○PTA母親バザーの開催			評価	【総括と今後の方向付け】 キッズ山本大作戦推進委員会、山本公民館、飯田市民吹奏楽団の現状を共有して、共通の目的を掲げて今年度も事業実施できたことは非常に良かった。また、今年度は阿智高校吹奏楽部、旭ヶ丘中学校合唱部にも参加してもらい、小中高連携+飯田市民吹奏楽団といった一般の団体も連携ができ、阿智高校吹奏楽部から飯田市民吹奏楽団への入団が決定したことは一つのつながりができたということでも成果であったと感じる。 しかし、この活動の根底にあるのは、山本の子どもを増やすということであり、そこに直結しているかといえば中々難しい面もある。次年度も開催する方向性は決定しているが、根柢の部分で議論しながら展開していきたい。		
学級・講座	親子体験教室		市・地	継続	1	10	10	5,141	実施内容のとおり	山本公民館
	目的	小学生とその親または家族を対象に、①家族間の会話・ふれあい、②親から子への技術・知恵の継承、③親の子に対する気づきを図る。	実施内容	11月22日 秋のスイーツづくり 講師：食生活改善推進協議会 山本支部の皆さん レシピ：畑のツナマヨ風サンドイッチ、粉豆腐のひとくちドーナツ、大豆の華のタフィー、フルーツジュース			評価	【総括と今後の方向付け】 今年のレシピは、親子の体験は一つの目的としていたが、もう一つ健康意識の観点をを入れて大豆を使ったスイーツづくりに取り組んだ。 講師である食生活改善推進協議会の皆さんには、事前に旭松食品の担当者から講習を受けて当日の講師として当たってもらった。 当日の参加は4組の参加であったが、講師自らが主体的になり開催できた講座であった。 しかし、参加者が伸び悩んでいる現状は改善できていないため、来年度はより一層参加者を増やすために、告知の面でも何かしらの手立てをとりたい。		

山本公民館の事業報告

No.2

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	児童センターおやつ作り		市費	継続	1	40	40	40	3月23日	山本公民館
	目的	児童センター児童を対象に、比較的簡単に調理できるおやつを学ぶことにより、子の自律及び健康増進を図る。	実施内容	レシピ: 畑のツナマヨ風サンドイッチ、Wiiこうや、パナナジュース 講師: 食生活改善推進協議会山本支部の皆さん			評価	【総括と今後の方向付け】 食生活改善推進協議会山本支部の皆さんと共催で開催しており、今年で3回目を迎えた。今年も、子ども達も楽しそうに調理をしており、学年毎にグループ分けをして高学年が統率してグループ毎にまとまりが生まれて良かった。また、今年は他の講座でも取り組んだ、大豆を使った健康的なレシピを取り入れ、より健康増進を意識した組み立てとした。自宅でも簡単に作れそうだという意見もでていたため、非常に有意義な事業ではないかと感じた。		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	キッズ山本大作戦ウィンターフェスタ26		地区費	継続	1	300	300	5,141	2月14日	山本小学校体育館
	目的	家庭・地域・学校が手をとりあって山本の子を育て、山本の未来づくりをすることを理念に、子どもを育てる環境づくりや少子化対策、若者定住促進等を図る。	実施内容	オープニング オープニングセレモニー レクリエーションゲーム&トーク(南信教育事務所指導主事:石井克之氏) キッズ山本大作戦コーラス隊発表 ポスターセッション・PTA母親バザー 旭ヶ丘中学校吹奏楽部発表・部活動紹介 山本地区少年文化スポーツクラブ紹介(信州飯田岳風会少年の部、高鳥屋柔道クラブ、山本少年野球教室、山本剣道クラブ、山本空手クラブ、山本ニバスケットボールクラブ) 山本小学校6年生発表 エンディングセレモニー			評価	【総括と今後の方向付け】 キッズ山本大作戦推進委員会が主催、山本地域づくり委員会及び山本公民館が共催となって開催された。内容としては実施内容のとおりであるが、キッズ山本大作戦推進委員会が主体となって運営できていることについては、非常に意義があるものだと感じる。その一方で、開催することだけに終始している印象も受けた。ここ数年、キッズ山本大作戦推進委員会と打ち合わせして開催できている事業とすると、音楽フェスタのみであり、ウィンターフェスタで公民館として協力できたことは、旭ヶ丘中学校吹奏楽部の楽器運搬であった。キッズ山本音楽フェスタ、ウィンターフェスタに限らず、社会教育機関の公民館としてキッズ山本大作戦推進委員会と、何をどのように協力ができるかを引き続き検討する必要がある。		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	家庭教育学習会		市・地	継続	1	200	200	400	10月16日	山本小学校
	目的	小学生の親または家族を対象に、①親の子への接し方の学び、②子どもの人権侵害の気づきを図る。	実施内容	10/16演題「笑い全て」 講師: 落語家 橘家圓十郎			評価	【総括と今後の方向付け】 山本小学校教養部との共催で開催した。山本出身である講師から笑いとは人生について子どもから大人まで老若男女が分かりやすい講演をいただいた。当日は、子ども、保護者、父母、一般といった幅広い参加者が得られ、郷土出身である橘家圓十郎氏の人気絶大であることを再認識した。その中で、家庭での教育、笑うこと、人生について講演いただき、真剣に講師の話に耳を傾け、時折笑い声も混じる非常に有意義な講演であったと感じる。しかし、その講演の内容をどれだけの方が実践できているのかという定かではないため、次年度も小学校PTAの皆さんと協議をして内容を定めることが必要である。		
区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	Yamamoto International友の会		市・地	継続	4	30	7	5,141	実施内容のとおり	山本公民館
	目的	一般を対象に、地域在住の外国人と地域住民の交流を図る。	実施内容	国際ふれあい交流会の外国人代表者が集い、毎月第3金曜日に地域在住の外国人と地域住民の交流の場として開催する。 5/16、8/8、9/19、10/8			評価	【総括と今後の方向付け】 発足して3年目を迎えたが、年々活動が低下してしまっている。人数が増えないのが一番の課題であるが、それぞれが忙しく集まる機会を設けることができなくなってしまっている。 しかし、山本小学校が開催している花の木OSIには、国際理解という講座を設けてもらっているため、それを目的に集まることはできている。当初の目的は、お茶を飲み気楽に話し合う場ということであったため、今一度その事を思い出せるように、次年度は考えていく必要がある。		

山本公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	日本語教室		他会計	新規	5	30	5	5,141	実施内容のとおり	ニツ山団地内集会所
	目的	山本地区在住の外国人を対象に、①地域在住外国人と地域住民の交流、②日本語の習得、文化の理解を図る。	実施内容	2/8 きちんと自己紹介できるようになる 2/15 飯田弁で話してみよう 2/22 仕事や学校での会話 3/1 近所の人と話してみよう 3/8 地域のいいところ知っていますか 講師:大澤 志那子			評価	【総括と今後の方向付け】 飯田市民館と共催で開催した。開催にあたっては、市の担当者、地域の民生委員と数回の会議を設け、地区在住外国人が地域へ目を向け、馴染む機会という目的をたてて臨んだ。 しかし、参加者の確保には苦勞し、参加者よりもスタッフの方が多いという現状があり、参加者がいないという回もあり、改めてニツ山団地に在住する外国人の方々の考え方の現状を思い知らされた。また、今年度感じたことを次年度に生かすために、何とかしないといけないという地域の声もある一方で、何かしても無駄であるという声もお聞きする中で、ニツ山団地が山本地区であるという認識を改めて持っていただけるように地域にも働きかけを行っていく必要がある。		
学級・講座	高齢者学級		市費	継続	14	560	40	5,141	実施内容のとおり	山本老人福祉センター
	目的	高齢者を対象に、①高齢者の学びの意欲の引き出し、②受講者同士の交流を図る	実施内容	NPO法人よつばと連携しながら山本老人福祉センターに集まる高齢者を対象に学級を企画・運営している。座学だけではなく、夏祭りや文化祭にも招待し、踊りや手芸品を披露していただいている。 5/2、5/30、6/27、7/25、8/1、8/29、9/26、10/17、12/12、2/13、2/20、2/27、3/27 講師:飯田コーディネーショントレーニング協会 小平 美恵子 元松川町教育長 鋤柄 郁夫			評価	【総括と今後の方向付け】 高齢者学級にコーディネーショントレーニングを採用して3年を経過するが、1年目と比較すると体を動かすということに抵抗がなくなり、参加している皆さんが元気になってきているという印象を講師、スタッフが強く感じている。次年度も引き続きコーディネーショントレーニングを採用していく方向性とする。また、コーディネーショントレーニング以外にも、生涯学習を学び、自分の生き方を見つめなおすということで、鋤柄講師を招いて講演もいただきこちらも好評であった。		
学級・講座	男の料理教室		市費	継続	2	12	6	5,141	実施内容のとおり	山本公民館
	目的	男性を対象に、①家庭料理をすることの楽しさを知ってもらうこと、②日常の健康への意識を高めてもらうことを図る	実施内容	料理は女性だけが作る物ではなく、男性にも必要なスキルであり、比較的簡単にできる料理に取り組んだ。 8/23…唐揚げ、簡単トマトサラダ、夏野菜味噌汁、人参みかんゼリー 3/7…きのこたっぷりハンバーグ、フレッシュサラダ、豆乳きのこスープ、りんごのコンポート			評価	【総括と今後の方向付け】 世界無形文化財にも指定された和食を学ぶことを中心に、健康も意識して組み立てて開催してきたが、趣旨の理解や賛同を得ることが難しいことを実感している。しかし、参加者は毎回得ることができているため、地域内に意識を持った方々が存在することは実感できている。後は、その輪をどのように広げていくかが課題である。		
学級・講座	飾り巻き寿司講座		市費	新規	1	20	20	5,141	12月6日	山本公民館
	目的	一般を対象に、食卓が楽しくなる料理を学ぶことにより、家庭内での絆を深めることを図る。	実施内容	食生活改善推進協議会山本支部との共催で、薔薇柄の飾り巻き寿司講座を開催した。 今回挑戦した飾り巻き寿司は薔薇柄であった。 講師:飾り巻き寿司インストラクター 菊原 訓子			評価	【総括と今後の方向付け】 昨年度は平日開催となり、若い主婦層が狙えなかったため、本年度はその年齢層を狙って開催をした。クリスマスも近いということもあり、サンタクロースとベルを親子で楽しみながら作った。当日の様子をみていると、趣旨に沿った形となっており、非常に良い講座が開催できたのではないかと感じている。次年度は内容は変更となるかもしれないが、開催の目的を確認しながら進めていきたい。		

山本公民館の事業報告

No.4

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	山本学講座	市費	継続	1	25	25	5,141	実施内容のとおり	杵原学校ほか
	目的 一般を対象に、①地域の歴史や文化等の魅力再発見、②住民の地域に対する誇りや愛着心の引き出しを図る。	実施内容 8/1 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 見学	評価 【総括と今後の方向付け】 例年は隔月で開催していたが、先方の都合もあり1回の開催に留まってしまった。しかし、内容は山本地区に存在していた竹佐人形・箱川人形の学習、飯田下伊那地区にも広く普及していた平田学の学習ということで非常に濃い内容が学習で、多くの参加も得られた。 次年度は、早々に杵原学校応援団文化班と協議し、開催回数、開催内容等の検討をしていければと思う。						
その他	杵原広場整備作業	地区費	継続	2	216	108	5,141	実施内容のとおり	杵原広場
	目的 山本地区の象徴である杵原広場の整備を行い、愛着を深める。	実施内容 杵原学校では夏祭り、運動会といった各種イベントが開催される。それらに向けた準備のため、公民館で各組合に呼び掛けを行い年3回整備をしている。 実施日：5月11日(81名)、7月13日(135名)、10月5日※雨天中止	評価 【総括と今後の方向付け】 各組合を招集して杵原学校の草刈りを実施しているが、今後も杵原学校校舎及び杵原グラウンドの定期的な管理が継続的に実施していくことができればと思う。						
文化事業	ウォーキングで山本地区を学ぼう！！	地区費	新規	1	20	20	5,141	6月14日	山本地区内
	目的 一般を対象にウォーキングに地域の歴史や自然を学ぶといった要素を取り入れ、地域住民が地域資源の大切さに気付いてもらうことを図る。	実施内容 コース：山本公民館→並松の道標→白隠石→杵原学校→横山橋→久米川大橋→竹佐伊奈神社→観音寺→竹佐陣屋屋敷跡→山本公民館 講師：林 武史(山本公民館長)	評価 【総括と今後の方向付け】 平成21年度までは文化事業としてウォーキングを開催していたが、ここ数年は他の事業との兼ね合いで開催を控えていた。しかし、ウォーキングを通じての地域学習の大切さを伝えなければならないという必要性があり開催する運びとなった。参加者は決して多くはなかったが、日頃から地区内を歩き地域を見る機会が失われているため、有意義なウォーキングとなったと感じる。 来年度も継続して開催していく方向となっているため、時期・コース・内容を検討してより多くの方々が地域を学べる内容としたい。						
文化事業	いいだ人形劇フェスタ2014山本地区公演	他会計	継続	1	296	296	5,141	8月9日	杵原広場ほか
	目的 一般を対象に、①子どもの想像力や感受性を磨く、②大人が実行委員となって支え手にまわり、観劇の環境づくりに携わることを図る。	実施内容 文化委員、地元有志、保育園職員等で実行委員会を組織し、企画運営を行った。 8/9 さくら保育園 劇団：人形劇チーム青空共和国 85名 イベント：スイカ割り 8/9 杵原広場(杵原多目的ホール) 劇団：やんちゃ3年1組、人形劇団クラルテ 211名 イベント：人形作り、昼食もてなし、スイカ割り	評価 【総括と今後の方向付け】 昨年度に引き続き山本公民館のショーウィンドウへ過去のポスター・劇団より借用した人形の展示をして地区の盛り上がりを図った。また、山本保育園・さくら保育園へも展示をした。その効果もあつてか、昨年度より観劇者数も増加した。 また、今年度は杵原広場(杵原多目的ホール)に移して開催したが、暑さ対策や会場の活用方法の問題もあつたため文化委員会にて検討を重ねてきた。 暑さ対策では、氷柱を約100本用意して扇風機も多く用意して対策ができた。会場の活用方法では、人形作り、スイカ割り、昼食のもてなしを杵原学校を活用して開催することができた。ロケーション的には、山本公民館より杵原広場の方が良いという意見もあつたため、来年度は会場の選考・杵原広場の活用方法をより綿密に検討できればと思う。						

山本公民館の事業報告

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	山本地区文化祭	地区費	継続	1	1,000	1,000	5,141	11月16日	山本公民館
	目的 一般を対象に、①各種団体、サークル、個人の活動発表の場の提供、②発表者および観客との情報交流を図る。	実施内容 文化委員と地元サークル・各種団体との長とで実行委員会を組織し、企画・運営を行った。また、昨年度に引き続いて阿智高校の部活動にもご参加をいただいた。 発表の部：芸能サークル、旭ヶ丘中学校吹奏楽部、大塚太鼓等 展示発表：文化サークル、杵原学校応援団、山本小学校、山本保育園、さくら保育園、阿智高校書道部等 体験の部：茶道サークル、フラワーアレンジメントサークル 出店：地域づくり婦人会、箱川五平餅の会、高鳥屋蕎麦の会、杵原学校応援団、阿智高校ハンドメイキング同好会 特別出演：飯田OIDE長姫高校定時制生徒会、飯田消防署伊賀良消防署	評価 【総括と今後の方向付け】 今年度は芸能発表、展示発表、出店といった各発表に多くの団体が参加してくれて昨年以上に賑やかになった。 事前の文化委員会や代表者会では文化祭開催の目的を共有し、久しぶりの開催となった反省会では今年度の反省や次年度への展望を共有することができて非常に有意義な文化祭であった。 また、今年度は昨年度に引き続いて阿智高生の出店への参加に加えて飯田OIDE長姫高校定時制生徒会にも自作したゆるキャラで登場していただき会場を大いに盛り上げて頂いた。参加した生徒達も自分に自身がついた様であり、地域活動に参加する意義が実感できた文化祭であった。 来年度は、このつながりを絶やすことなく、文化祭を開催する目的や効果を参加者全員で共有してより良い文化祭が継続できる様に展開していきたい。						
文化事業	国際ふれあい交流会	市・地	継続	1	100	100	5,141	2月1日	山本公民館
	目的 一般を対象に、①地域在住外国人と地域住民の交流、②青壮年層の他国文化・慣習の理解を図る。	実施内容 大塚太鼓による子ども太鼓披露、山本小学校日本語教室シェイシェイによる人形劇披露、よさいこによるキッズよさいこの披露 ・各国料理作り：巻き寿司、野沢菜炒め(日本)、餃子、軟骨料理(中国)、アロスカルド(フィリピン) ・餅つき大会、工作教室の実施 ・交流会 ○各国料理の試食・歓談 ○ビンゴ大会 ○中国ヤンコ披露 ・新年会	評価 数量的成果 (項目名と数値) 【総括と今後の方向付け】 地区在住外国人・地域づくり婦人会・文化委員会で実行委員会体制を組んで開催した。山本小学校・旭ヶ丘中学校・阿智高校への声掛けにより例年並みの参加者が得られ、盛大に開催することができた。 また、新企画として実行委員だけで新年会を開催し、日頃の悩みや反省を食事を交えながら開催したことにより、交流がより深まった。 しかしながら、この行事が誰のためにどうなって欲しい行事なのかという課題もあり、来年度はこの行事の根本的な面を検討して、今後も継続していけるような事業の仕掛け方が必要である。						
体育事業	分館対抗スポーツ大会	地区費	継続	1	300	300	5,141	5月25日、6月1日	杵原広場ほか
	目的 分館を対象に、①分館事業の一環として取り入れ、②地区住民の体力増進と交流機会の提供を図る。	実施内容 女子ソフトバレー大会(1日目開催、15チーム参加) 優勝：竹佐分館、準優勝：南湯川分館 男子野球大会(2日間開催、13チーム参加) 優勝：南湯川、準優勝：東平2下	評価 【総括と今後の方向付け】 野球・ソフトバレーというスポーツを通じて、各分館の熱戦が展開され地域のまとまりを感じた。女子ソフトバレーボール大会は主審の選出について毎年意見をいただいていたが、今年度は各分館より必ず1名選出を前提条件に、事前に審判講習会を開催した。その結果、当日は問題なくスムーズな進行ができた。 また、男子野球大会は人選が難しいということもあり雨天時の囲碁ボールを中止としたが、雨に降られることもなく、久しぶりに決勝戦を開催することができた。 しかし、野球大会もソフトバレーボール大会も毎年怪我をする方がいるため、準備運動を入念に行う、各チームにも徹底してもらおう方法を引き続き検討した方が良い。						

山本公民館の事業報告

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	体力測定会	地区費	新規	1	20	20	5,141	7月13日	山本小学校体育館
	目的	実施内容	評価	<p>一般を対象に健康で明るく元気に生きていくために体力測定の手法を知り、今後の生活の中で効果的に活用していくことを図る。</p> <p>山本公民館体育委員会で参加者を募集して運営を行った。 <内容> 文部科学省「新体カテスト実施要領」メニューによる体力測定及び判定</p> <p>数量的成果 (項目名と数値) 【総括と今後の方向付け】 初の試みで開催したが、地区内の反応は非常に薄いことを感じた。一方で体力測定に関心を持ってくれた方々もいたことを知れたのは収穫であった。 次年度は、スポーツ団体や健康部会等に協力を図り、体力測定の必要性について議論を進めて開催していければと思う。</p>					
体育事業	山本地区市民大運動会	地区費	継続	1	1,000	1,000	5,141	10月19日	杵原広場
	目的	実施内容	評価	<p>一般、分館を対象に、①地区全体から人が集まることによる一体感や活力の認識、②地区住民の体力増進と交流機会の提供を図る。</p> <p>主管である体育委員会で種目等を検討し、地域づくり委員会や各種団体とで実行委員会を組織して運営を行った。 一般種目：パン食い競争、小学生ダンス、小学生綱引き、玉入れ、女団連踊り等 分館対抗種目：貯蓄競争、縄つなぎ競争、人間機関車等 お楽しみ抽選会 優勝：大明神分館、準優勝：北平分館、3位：久米分館、中平分館</p> <p>【総括と今後の方向付け】 ここ数年は雨の影響もあり一年おきの開催となっているが、企画・運営については滞りなくできた。当日も挨拶に来られた飯田市長を子ども達の綱引きに参加してもらった等の機転をきかしたり、参加対象の年齢層の幅を広げたりと臨機応変に対応することができた。 欲をいえば企画の段階で、運動会についての必要性についての議論ができると良かった。</p>					
体育事業	軽スポーツ大会	地区費	継続	1	200	200	5,141	1月26日	山本小学校体育館ほか
	目的	実施内容	評価	<p>一般、分館を対象に、①軽スポーツの普及、②冬季における運動機会の提供を図る。</p> <p>ワンバウンドふらば～る大会(18チーム参加) 【杵原多目的ホール会場】 優勝：久米B、準優勝：南湯川、3位：北平B 【山本小学校体育館会場】 優勝：箱川、準優勝：久米A、3位竹佐A</p> <p>【総括と今後の方向付け】 年々参加チームが増加しており、昨年度より参加チームが1チーム増加し、公民館事業への参加について各分館の意気込みが感じられる。誰でも楽しめるニュースポーツであるワンバウンドふらば～るバレーを採用したため、親子、友達同士の参加もあった。また、久米では消防団を中心としたチームの参加があり、若年層の公民館活動への参加があることが今後の地域づくりへもつながるのではないかと感じる。今年度もワンバウンドフラバールバレーを採用したが、ニュースポーツの普及を考えると、そろそろ種目変更の検討も必要である。</p>					
企画事業	杵原学校桜まつり	市・地	継続	1	1,000	1,000	5,141	実施内容のとおり	城山公園
	目的	実施内容	評価	<p>一般を対象に、映画「母べえ」の舞台にもなった木造校舎「杵原学校」。心を和ませるこの貴重な文化財を多くの方に知っていただき、地域の元気につながってほしい。</p> <p>山本地域づくり委員会、山本公民館、杵原学校応援団、商工会山本支部、山本女性団体連絡協議会、キッズ山本大作戦からなる、杵原学校桜フォトコンテスト実行委員会を組織し、企画・運営にあたった。 ・カメラマン、見学者へのおもてなし活動(4月4日～4月13日) ・杵原校舎の案内(4月4日～4月13日) ・杵原フォトコンテストの実施(3月上旬～5月15日)</p> <p>【総括と今後の方向付け】 公民館から、公民館長が副大会長、企画委員長が副実行委員長兼事務局、文化委員長が実行委員として組織に加わった。公民館委員の活動内容としては、おもてなし活動への協力、杵原学校桜フォトコンテスト表彰式の会場設営・表彰式への参加であった。来年度は何故公民館がこの事業に関わるかの意味も考えて実行委員会への提案・検討をしていきたい。</p>					

山本公民館の事業報告

No.7

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
企画事業	山本夏祭り		地区費	継続	1	1,000	1,000	5,141	7月27日	杵原広場(杵原グランド)
	目的	<p>一般を対象に、①地区全体から人が集まることによる一体感や活力の認識、②獅子舞や山本音頭など地域芸能の継承を図る。</p>	実施内容	<p>地域づくり委員会や商工会、小学校など各種団体の長とで実行委員会を組織し、予算や日程などを検討し、企画・運営にあたった。 イベント:竹佐獅子舞、南平獅子舞、牛山太鼓、大塚太鼓、小学生相撲大会、ジャンケン大会、消防団ラッパ吹奏、山本音頭ほか 出店:山本商工会、JA山本支所、杵原学校応援団、箱川五平餅の会、地域づくり婦人会、SEMSほか</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 実行委員会で共通認識を持つため、「つなぐ」をテーマを据え企画運営した。内容は昨年並だったが、伝統芸能は昔の伝統、相撲大会は地域の大人と子供、山本夏祭りは山本全体をつなぐといった、テーマに沿った夏祭りの開催ができた。また、「ゴミ問題」「救護」の課題解決に向け、環境緑化と日赤が実行委員に加わり円滑な運営ができた。共通認識を持てるテーマがあると、運営側や参加者側にも伝わり易いため、テーマ設定の必要性を感じた。</p>		
企画事業	武田信玄狼煙リレー		地区費	継続	1	1,000	1,000	5,141	9月6日	城山公園ほか
	目的	<p>一般を対象に、①城山ほか地域の歴史学習、②飯田下伊那の一体感の引き出しを図る。</p>	実施内容	<p>・杵原広場から城山公園までウォーキング ・狼煙組立、打上 ・残り火でロールパン、ウィンナーの調理</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 公民館が狼煙リレーを開催する目的は地域学習のためであると議論し、チラシの各戸配布、各会議の場で趣旨説明を行い、今年は新たにウォーキングを開催した。地域内の認識は徐々に広がっているが、ウォーキングの参加者が少ないのが残念であった。しかし、阿智高校美術部が参加し、地域を学べ好評であったのは収穫であった。次年度は、多くの人が参加できる仕掛けが必要である。</p>		
企画事業	ニュースポーツフェスティバルへの参加		0円	継続	1	10	10	5,141	11月9日	飯田市勤労者体育館
	目的	<p>公民館委員を対象に、①ニュースポーツの普及・浸透、②他地区との交流、を目的に参加する。</p>	実施内容	<p>公民館委員を対象に飯田市ニュースポーツフェスティバルへの参加者を募集し、ワンフラ交流大会に1チーム参加した。</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 軽スポーツ大会でもワンフラを採用していることもあり、種目への抵抗はなかったが、他地区とのレベルの違いに驚愕していた。また、他地区の選手とも話す機会があり、交流という観点からも目的は達成できたと思うため、次年度も引き続き参加するのが良いと思われる。</p>		
企画事業	山本地区成人式		他会計	継続	1	44	44	62	1月11日	山本公民館
	目的	<p>新成人を対象に、①実行委員の活動を通して地域に愛着と誇りを持つことを図る</p>	実施内容	<p>主管である企画委員会と成人該当者とで実行委員会を組織し、企画・運営を行った。 式典:記念写真撮影、主賓挨拶、新成人挨拶、記念品贈呈、祝太鼓披露 交流会:婦人会による料理の提供 新成人実行委員の活動:記念誌・記念品の制作、式典の受付、旭ヶ丘中学校同窓会の企画・運営</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 大きな混乱もなくスムーズに運営することができた。地域学習については地区内をウォーキングで散策し、身近なふるさと山本を見直し、再発見・再確認することができた。また、当日は太鼓という地域文化を肌で感じることににより、地域文化も再認識することができたのではないと思う。</p>		
企画事業	伊賀良地区とのワンフラ交流会		市・地	継続	1	20	20	5,141	実施内容のとおり	伊賀良小学校体育館
	目的	<p>公民館委員を対象に、①ニュースポーツの普及・浸透、②他地区との交流、を目的に参加する。</p>	実施内容	<p>スポーツ推進委員が中心となり、公民館委員を対象に参加者を募集し、3チームで交流した。</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 伊賀良地区は、旭ヶ丘中学校区であり、互いの公民館委員が交流できたことは非常に有意義であったと感じた。また、スポーツをすることで単に話し合っているよりも、楽しくできたことは成果であったと感じるため、次年度も開催するのが良いと思われるが、時期の見直しは必要である。</p>		

伊賀良公民館の事業報告

No.1

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	乳幼児学級(0-1歳児学級)		市・地	継続	20	600	30	120	通年	伊賀良公民館 他
目的	0-1歳児とその親を対象に、子どもの発達段階に応じた健全な育ち、親の子育て不安の解消、参加者同士の交流を目指す	実施内容	0-1歳児は、主に保育士・保健師が中心となって事業展開している。月に2回程度実施しているが、前年度まで0-1歳児学級は第1子までしか学級に参加することができなかったため、今年度からは新たにもう1学級を作り、1子目はもちろんのこと2子目以降の親子誰もが参加できるようにした。				評価	【総括と今後の方向付け】 以前から乳幼児学級の課題であった、2子目以降の親子の学級だったが、今年度から保育士・保健師・公民館で相談し、誰もが参加できる形をとることができた。参加者アンケートからも、月2回の学級開催により参加者・保育士・保健師と交流が深まり些細な相談もできるようになった等、目指した成果が出始めている。様々な内容の要望も出ているので、次年度はバランス良く取り入れながら進めていきたい。		
区分	いがら農園		市・地	継続	18	252	19	14,637	5月～11月 月2～3回開催	いがら農園(三日市場)
目的	保育園児およびその兄弟をもつ親子を対象に、自然環境とのふれあい、食に対する意識向上を目指す	実施内容	参加者は、前年参加者、組合回覧、保育園で呼びかけをし募集した。参加者の要望を踏まえながら、講師と相談し作物を決めていった。ナス・ピーマン・ジャガイモ・トマト・スイカ・トウモロコシ・サツマイモなどを栽培し、親子で自然に触れ合いながら、食について関心を高める機会とした。講師：熊谷篤さん、壬生義光さん				評価	【総括と今後の方向付け】 平成19年度からスタートし今年で8年目を迎えた。当初は40人と多くの参加があったが、次第に減少してきている。今年は新規2組の親子が入ってくれたが、固定化されてしまっているのと、なかなか自主的な動きになってこなかった。今年度はあえて料理教室をやめて様子を見てみたが、料理教室をやったかったと声を上げてくれる方が数人出てきた。その思いを形にできるように、次年度はスタートの打合せを大事にし、講師と相談しながら進めていきたい。		
区分	かさまつ大学		市・地	継続	6	132	34	14,637	実施内容参照	伊賀良公民館 他
目的	中高年層を対象に、交流・学習の場の提供をし、今まで得てきた知識を相互に交換しあい知識をより深め、その知識を家族や地域へ伝え広めることで、自らの健康維持と地域づくりに寄与することを目指す	実施内容	高齢者学級の位置づけを取り払い、平日午後に参加できる伊賀良の方を対象にかさまつ大学を実施。2か月に1回程度実施予定。年会費2000円。 参加者の意見を取り入れ、内容を決定した。 ①5月29日(木) 老生の生涯学習～もう一歩突っ込んでみる～ 講師：木下紀氏(元緑ヶ丘中学校長) ②7月29日(火) 伊那谷の自然～生物の変化～ 講師：四方圭一郎氏(飯田美術博物館学芸員) ③9月29日(月) 飯田下伊那の産業の変遷～養蚕業を中心に～ 講師：小林正春氏(長野県考古学会会長) ④12月5日(金) かさまつ大学研修旅行～富岡製糸場を見に行こう～ ⑤1月26日(月) 満蒙開拓の歴史、映画「望郷の鐘」鑑賞 講師：三沢亜紀氏(満蒙開拓平和記念館事務局長) ⑥3月13日(金) ちょっと不思議な伊那谷の言葉～飯田弁の魅力～ 講師：井上伸児氏(飯田東中学校)				評価	【総括と今後の方向付け】 全体の人数が若干減ってしまったが、新たな参加者も加わり交流を深めながら進めることができています。近年は女性の参加者が増えており、女性の意見・感想も良く出された。 内容は、昨年度のアンケートおよび開校式の茶話会を元に組み立てていき、日程も2ヶ月に1度行えるようにした。 中高年層の講座のため、昔の生活を思い出せる内容になると参加者の反応が変わってくるので、なるべく比較をしながら今後の生活に生かせるような内容になるよう取り組んだ。第1回目の開校式で、生涯学習の大切さを学んでから講座を始めていったのも良かったと感じる。 この講座は、内容の組み立てや当日の運営などを自主的に行おうとすると参加者が減ってしまうということから、要望を取入れながら館長・主事が行うことが多かったが、中には携わっていただけそうな方々がいらっしやるのがわかってきた。運営委員会のような形式をとり、携われる方にはなるべく入っていただけるよう次年度取り組んでいきたい。		
区分	お楽しみ会(中央図書館伊賀良分館)		地区費	継続	5	500	100	14,637	実施内容のとおり	伊賀良学習交流センター
目的	保育園児、小学生、一般を対象に、図書館利用者の拡大させ、読書の大切さを感じる機会とする	実施内容	お楽しみ会を以下のとおり実施。 ①7月2日(水) 星のお楽しみ会 ②10月18日(土) 伊賀良小学校人形劇を見よう ③④11月15日(土)～16日(日) ようかいたちの秋祭り(文化祭) ※その他、読み聞かせの会を保育園・小学校・乳幼児学級で実施				評価	【総括と今後の方向付け】 自然・文化など興味を惹きそうな内容で行い、それに関連する本を紹介することにより読書の楽しさを感じてもらい、図書館の利用を増やせるよう心掛けている。 今年も昨年度に引き続き小学校の人形劇を行うことで、今まで図書館に足を運んでくれなかった親子・祖父母の参加が多くあった。社会の情勢により、子どもたちが下校後寄りづらい環境ではあるが、利用増加につながるよう取り組みたい。		

伊賀良公民館の事業報告

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	伊賀良を学ぼう ～歴史・文化・自然～	市・地	継続	18	280	33	14,637	実施内容参照	伊賀良公民館 他
学級・講座	<p>目的 一般を対象に、郷土学習を通じて、郷土に関心を持ち、誇りと愛着の醸成を目指す</p> <p>実施内容 今年度は、今までの活動の成果をまとめ地域の方にいかに知ってもらおうか考え、昨年度から意見交換をしてきた「伊賀良探検マップ(仮称)」の製作に向けて取り組んだ。また、マップ製作の中でここは学習した方が良いという事柄が出てきたときには、今までと同じように座学・現地学習を行い地区内の参加者も新たに募集して開催した。学校との連携という面では、小学校の校歌について6年生の授業で発表する機会を設け3年目になるが、学校との意見交換の中で、今後は4年生に伝え5年6年と意味が分かりながら歌えるように願いを込めて行うようにした。 <座学、現地学習> ・4月13日(日) 伊賀良の名桜めぐり ・5月～6月 伊賀良の石造文化財 ・8月23日(日) 日夏耿之介、桜山城址、観音堂原 ・2月24日(火)、3月15日(日) 久米街道 <マップ製作作業> ・計10回(文化祭での中間発表を含む) <伊賀良小学校校歌発表> ・3月3日(火) 4年生、6年生の全クラス</p>							<p>【総括と今後の方向付け】 学級発足当時から中心メンバーの目的共有ができていた。自らの学習にとどまるのではなく、どのようにすれば地域の方が興味を持ってくれ、地域のことを知ってもらえるのかを考えながらマップ作りを進めている。思いがあるだけに、マップの全体像のイメージや何をどの程度記載するか等に違いがあり、1つにまとめていくことの難しさを感じているが、平成27年度に完成できるよう、多様な主体と連携して進めていきたい。 また、座学や現地学習を楽しみにされている方も多くいるため、地域に向けた意識を低下させないようにマップ製作だけにとどまることなく座学・現地学習を続けながら取り組みたい。 小学校校歌の授業発表においては、今年で3回目を迎えることもあり、学校と事前に相談しながら進めることができた。4年生の授業に関しては未知であり、非常に伝えるのに苦労する面があるが、地域と学校の意見が一致しているため、次年度からはさらにわかりやすく伝えられるよう今年度の反省を先生と意見交換し次年度につなげていきたい。</p>	評価
	男性の料理教室	市・地	継続	6	82	18	14,637	実施内容のとおり	伊賀良公民館
学級・講座	<p>目的 成人男性を対象に、料理技術習得と食生活を見直すことを目指す</p> <p>実施内容 組合回覧等で呼びかけをして、参加者を募集。参加者の意見を取り入れ、その都度メニューを決定して行った。 講師：食生活改善推進協議会伊賀良支部 ①5月29日(木) 自己紹介、五平餅、お吸い物 ②7月3日(木) 巻き寿司、サバたまねぎ ③9月3日(水) 餃子、ナムル、中華コーンスープ ④10月28日(火) 鮭のホイル焼き、けんちん汁、胡麻和え ⑤12月1日(月) 寄せ鍋、から揚げ、豪快昆布きゅうり ⑥2月10日(火) 手打ちそば、天ぷら(特別講師：大瀬木そばクラブ)</p>							<p>【総括と今後の方向付け】 参加者の皆さんが回数を重ねるごとに打ち解け、交流が深まりながら事業を実施している。アンケートからも、楽しい雰囲気であることが1番だという意見もいただいている。目的である料理技術の向上と食生活の見直しについては、以前より家で料理をするようになった方が約50%、食生活や栄養に気を付けるようになった方が約70%と、人により効果の違いがあるにしても成果が出ている。 仲間作りができていたので次年度はグループ分けをしメニューの検討・当日の準備・運営等に取り組んでも良いという意見があり、参加者の意見を聞きながら無理のない範囲で進めていけるよう取り組みたい。</p>	評価
	伊賀良を学ぼう ～食～	市・地	継続	4	60	15	14,637	実施内容のとおり	伊賀良公民館
学級・講座	<p>目的 一般を対象に、地域の食文化や伝統食品について学ぶことで、地域への誇りと愛着の醸成を目指す</p> <p>実施内容 「調味料としての発酵食品にこだわろう」と昨年度事業「お味噌を作ろう」講座で仕込んだ味噌を調理実習室で保管・熟成させた。 講師：熊谷光廣さん(元下伊那農業高校講師) ①9月4日 お味噌の天地返し ②10月30日 お味噌の蔵出し、試食 ③11月14日、15日 文化祭での試食体験と展示 ④3月27日 お味噌を作ろう</p>							<p>【総括と今後の方向付け】 昨年度の「お味噌を作ろう」に参加された方を中心に募集し、組合回覧でも募集して実施した。参加者にはまた来年も行ってほしいと言われる講座だが、新規の参加者も数人程度となかなか新たに参加されないのが現状である。 作った味噌は参加者に全て配るのではなく、運動会の豚汁や男性の料理教室の調味料で使用し活用を図っているが、もう少し広がりを持たせられないか検討していきたい。</p>	評価

伊賀良公民館の事業報告

No.3

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	伊賀良を学ぼう～食～横山タカ子先生に学ぶ料理教室		市・地	継続	1	32	32	14,637	2月23日	伊賀良公民館
	目的	実施内容	<p>テーマ: 地元の越冬野菜を使った温かいごはん 講師: 横山タカ子氏 内容: ミニ講話、調理実習、交流会 郷土料理などで有名な横山タカ子さんを講師に、郷土食を見直すとともに、地域食材の素晴らしさ、健康長寿の秘訣は信州食にあることをお話いただいた。</p>		<p>【総括と今後の方向付け】 募集定員がすぐにいっぱいになる伊賀良公民館の人気講座である。講師を迎えて今回3回目を迎えるが、新規の応募者も多く、非常に積極的に質問が出される。費用のかかる講座ではあるが、男性の料理教室の講師を務めていただいている食改の皆さんのスキルアップの場でもあり、今後も継続していきたいと考えている。地元野菜を使うことや信州食の素晴らしさをわかりやすく伝えていただき、健康増進はもちろん地元への愛着、フードマイレージについても間接的にかかわってくる。「食」は多くの方に興味があるため、多様な分野を意識できるよう心掛けたい。</p>					
学級・講座	復活！『伊賀良音頭』		市・地	新規	5	60	12	14,637	12月12日～3月9日	伊賀良公民館
	目的	実施内容	<p>昔伊賀良地区の盆踊りとして定着していた伊賀良音頭がある。現在も小学校運動会で踊られてはいるが、先生方も変わり生徒も変わり、正調で踊ることもできなくなってきた。また、当時踊っていた地域住民の皆様にとっては、伊賀良音頭を久しぶりに踊りたいという思いがあちこちから聞こえてきている。復活に向け、過程を大切にしながら記録、保存に向けてビデオ撮影に取り組んだ。 講師: 木下和義氏 踊り: 日扇の会、悠鳳会 撮影: ビデオ委員会</p>		<p>【総括と今後の方向付け】 伊賀良小学校の運動会に向けて練習をしていた子どもたちを見て、PTAから公民館に伊賀良音頭のビデオはないか、講師をしてくれる人はいないかと紹介があったことから、この事業につながった。記録・保存を主に、社会教育関係団体の2グループに踊っていただき撮影を行った。今後は小学校への指導を進めるだけでなく、小学校・PTAと連携し、多世代が交流できる場を作り出していきたい。</p>					
文化事業	いいだ人形劇フェスタ2014 伊賀良地区公演		市・地	継続	7	1,206	172	14,637	8月5日～8月10日	伊賀良公民館他5会場
	目的	実施内容	<p>昨年に引き続き、積極的に小中学生のボランティアを募集し実施した。伊賀良小学校の人形劇の発表の場としての公民館会場が定着してきた。各会場ですら暑さ対策などの観劇環境向上の工夫をした。今年も、北方会館で地区オリジナル企画も行われた。 上演会場: 伊賀良公民館(木曜日伊賀良小学校劇団)、伊賀良公民館(金曜日夜のカーニバル)、北方会館・殿岡保育園・中村会館・増泉寺・三日市場研修センター</p>		<p>【総括と今後の方向付け】 小中学生及び一般の方のボランティアスタッフの効果は大きく、次年度も引き続き行っていくとともに、もう少し積極的に携われるように意見を取り入れられる場を作り出してまいりたい。 伊賀良地区で久しぶりに地区オリジナル企画が出された。準備に苦労されたようだが、当日の子どもたちの笑顔や役員の姿を見ると、どんな内容であれ自主的に組み立てることの重要性を改めて感じた。次年度以降も、新たな動きが生まれてくるよう取り組みたい。</p>					
文化事業	ふるさとゲームウォーキング～中村の巻～		市・地	継続	1	350	350	14,637	9月7日	中村地区
	目的	実施内容	<p>担当分館: 中村分館(会場は毎年変更) 分館役員、文化部員が中心となり、コース作り、クイズ作り等を行った。年度当初に、伊賀良小学校4学年の3クラスの親子レクリエーションとして参加することを決めて、実施している。 この事業を通じて、地域学習の要素を入れるのはもちろんのこと、交通安全・地域の安全を図るために警察官による挨拶・指導や、環境のためにウォーキングの途中にゴミ拾いを行った。</p>		<p>【総括と今後の方向付け】 事業実施に向けて、分館、文化部、学校、保護者が一堂に会し、それぞれの立場から意見を出し合うことができ、改めて事業実施の過程の大切さを感じた。子どもたちには感想等を書いてもらい、その中から「発見大賞」「提案大賞」を選び表彰した。 会場の設営に難があるものの、次年度は三日市場地区で行うことが内定した。今年度の反省を生かしさらに充実した内容となるよう、学校・PTAを含め検討したい。</p>					

伊賀良公民館の事業報告

No.4

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	伊賀良地区文化祭		市・地	継続	1	4,000	4,000	14,637	11月15日・16日	伊賀良公民館 他
	目的	地区住民を対象に、日頃の成果の発表の場、交流の場として、芸術文化のさらなる振興を図る。	実施内容	特別企画 森田修史カルテット 公民館を利用する団体等の発表の場、地域活動・地域文化を知り、それぞれがコミュニケーションを図る機会として2日間にわたり実施した。まちづくり協議会の各委員会の協力や連携、小学校会場で実施されるふれあい広場との連携、商工会をはじめとする各種団体等との連携など、地域の一大行事として盛大に実施した。			評価	【総括と今後の方向付け】 今年は、小中学生の音楽の発表が素晴らしいという昨年の感想から、音楽をメインに据えた文化祭にしよう文化部会で決定し進めていった。森田修史カルテットは非常に盛り上がり、以前まではいなかった中学生の鑑賞者も見られた。多様な主体が集まる機会であり、小学校体育館・公民館が様々な催しで埋め尽くされ、交流が図れる機会である。改善の意見は多々でてきたが、事業実施の意義と成果をしっかりと把握しながら、次年度もより良いものとなるよう検討してまいりたい。		
文化事業	伊賀良地区成人式		市・地	継続	1	133	133	184	1月11日	伊賀良公民館
	目的	新成人を対象に、地域への関心を持つこと、成人としての自覚を持つことを目指し、地域でお祝いする機会とする	実施内容	新成人代表、分館長、文化部、広報部で実行委員会を組織して、企画・運営。 式典：来賓あいさつ、記念品贈呈、上殿岡獅子舞保存会による祝舞、成人代表者あいさつ、記念写真撮影 新成人実行委員の活動：地域学習（上殿岡の獅子舞）、記念品の企画・制作、旭ヶ丘中学校同窓会の企画・運営			評価	【総括と今後の方向付け】 新成人が地域へ関心を持ってもらうにはどうしたら良いかを考え、地域学習は新成人実行委員が自ら学びたいことを考えることや、地域で活躍する人の話を聞けることを大切に行った。獅子舞という飯田下伊那の特徴的な伝統文化を学ぶこと、老若男女が和気藹々と1つのことを行う姿を見ることができ、それを当日の式典のアトラクションとして披露していただいた。 しかし、地域でお祝いするという点では、内容的にも意識的にも形式的に終始してしまっている。成人式を支える役員が新成人を心から祝福し、新成人がそれを感じられるにはどうしたら良いのか、大規模な地区だけに難しい点ではあるが検討していきたい。		
体育事業	伊賀良地区交流ペタンク大会		地区費	継続	1	250	250	14,637	5月18日	伊賀良小学校校庭
	目的	一般を対象に、誰でも簡単にできるスポーツを通じて、健康増進・地域住民の交流を目指す	実施内容	全57チーム、約250名の選手が参加。 AからEブロックまで作り、それぞれのブロックで優勝を決定した。			評価	【総括と今後の方向付け】 役員2年目の体育部最初の事業であったが、昨年の反省を生かし受付方法を変更することで時間短縮を図るなど工夫することができた。 しかし、参加者については、分館で募集した選手がほとんどになり、組合回覧等での一般参加はごく少数となってしまっている。ペタンクが定着してきており、老若男女が楽しめ交流することができているが、他の事業も合わせてどうPRするか検討が必要である。		
体育事業	分館対抗夏季スポーツ大会(野球・囲碁ボール大会)		地区費	継続	1	900	900	14,637	7月13日	伊賀良小学校校庭・体育館
	目的	一般を対象に、スポーツを通じて、健康増進・地域住民の交流を目指す	実施内容	野球：8チーム参加。全分館と旭ヶ丘中学校1チーム 優勝：大瀬木 準優勝：上殿岡 3位：三尋石、中村 ※軟式野球連盟より公式審判4名を招いた。 囲碁ボール：36チーム参加。大瀬木6チーム、他分館5チーム 優勝：三尋石E 準優勝：中村C 3位：大瀬木B			評価	【総括と今後の方向付け】 野球は種目を変更して欲しいという声も上がるが、伊賀良地区の伝統として残していきたいという思いから続けている。今年も全分館参加と旭ヶ丘中学校の参加により、大いに盛り上がる事ができた。囲碁ボールも定着しつつあり、子ども参加も増え始め、特に高齢者が一緒に交流できる良い機会となっている。 次年度も継続してまいりたい。		

伊賀良公民館の事業報告

No.5

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	伊賀良地区大運動会		地区費	継続	1	2,000	2,000	14,637	10月26日	伊賀良小学校校庭
	目的	地区住民を対象に、一同に会する機会を設け、地域住民の交流を目指す	実施内容			伊賀良地区住民が一堂に会する機会として準備を進め開催。今年は中学校と連携し、中学生が企画した種目を小学校5・6年生と中学生と一緒に当日競技を行うことができた。 分館対抗種目 優勝：大瀬木 準優勝：三尋石 3位：下殿岡 応援合戦 最優秀賞：大瀬木 優秀賞：上殿岡、北方				
体育事業	山本地区とのワンふら・囲碁ボール交流会		地区費	継続	1	40	40	96	実施内容のとおり	伊賀良小学校体育館
	目的	公民館役員を対象に、ニュースポーツの普及・浸透、他地区との交流を目指す	実施内容			スポーツ推進委員が中心となり企画。体育部に限らず全公民館役員から選手を募集し交流した。 種目 ワンバウンドふらば～るバレー、囲碁ボール				
体育事業	冬季スポーツ大会		地区費	継続	1	320	320	14,637	2月8日	伊賀良小・旭中体育館
	目的	一般を対象に、スポーツを通じて、健康増進・地域住民の交流を目指す	実施内容			分館対抗のワンバウンドふらば～るバレー大会。全32チーム参加。 伊賀良小学校会場：16チーム参加 優勝：大瀬木B 準優勝：大瀬木A 3位：北方B 旭ヶ丘中学校会場：16チーム参加 優勝：北方F 準優勝：大瀬木E 3位：大瀬木G				
広報事業	広報「いがら」発行		地区費	継続	12	252	21	14,637	実施内容参照	伊賀良公民館
	目的	地域住民を対象に、地域の情報を発信し、地域への関心を高めることを目指す	実施内容			年間6回発行 第43号から第48号までを発行。 地域のお知らせ、事業の記録、地域のお話をお伝えしている。 表紙の写真にこだわり、地区や分館ニュースのページを多くとっている。 あなたにタッチ、けやきのめなどの連載記事を継続している。 発行数：6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月） 発行部数：5,000部 地区外発送：20件				

【総括と今後の方向付け】
当日を迎えるまでに、実行委員会やそれぞれの担当者ごと何度も打合せをすることができた。途中から雨天となったため様々な意見があったが、競技部長を中心にしっかりと協議し、最後まで無事に終えることができたことにより、1つにまとまることができたように感じる。この思いを次年度につなぎ、工夫された運動会を実施していきたい。
また、中学生の参画については学校と地域の思いが1つになって実施することができた。中学生実行委員は、会議・準備・当日・反省会と積極的に参加してくれ、地域活動への第1歩を踏むことができたのではないだろうか。今後もこの思いを大切にしながら、連携を進めていきたい。

【総括と今後の方向付け】
山本地区は同じ旭ヶ丘中学校区であり、互いの公民館委員が交流できたことは非常に有意義であったと感じた。また、スポーツをした後に交流会を行ったため、単に話し合っているよりも楽しく情報交換できたことは成果であったと感じる。次年度も開催するのが良いと思われるが、時期の見直しは必要である。

【総括と今後の方向付け】
ワンバウンドふらば～るバレーが地域に浸透し、年々競技レベルが上がってきている。どうしても人口規模の大きな分館の活躍が目立ってしまうが、反省会での意見を確認してみると役員・選手がそれだけが目的ではないことを把握し、交流することの楽しさや大切さを感じることができている。
今年は大きなケガがあり、冬季に行うことの難しさも出てしまったが、準備運動をもっと分館でしっかり行おうなど自発的な意見が出された。次年度に引き継いでいきたい。

【総括と今後の方向付け】
地区住民への広報として、伊賀良地区では大きな予算を盛り力を入れて発行している。まちづくり協議会各委員会から各1名広報部会に出いただき、地区内のあらゆるニュースを拾えるようにしている。
今年は、旭ヶ丘中学校区が小中連携・一貫教育の重点校ということもあり小中学校に記事をお願いしたり、子育て世代の意見を取入れたいと連載をはじめた。しかし、どうしても依頼記事が多く、広報部員が客観的に地区や事業をとらえ発信する機会としては弱い面がある。地域の課題にも踏み込めたものとなるよう取り組みたい。

伊賀良公民館の事業報告

No.6

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
広報事業	米寿記念写真撮影・贈呈		地区費	継続	1	70	70	84	8月24日	かさまつのさと 他
	目的	88歳高齢者を対象に、地域でお祝いする。	実施内容	広報部：写真撮影(かさまつのさと及び自宅訪問にて) 広報いがらで掲載、文化祭に写真展示 健康福祉委員会・区長等：地域の88歳の訪問の折に、御祝い写真を持参して訪問			評価	【総括と今後の方向付け】 毎年恒例の行事として、対象者およびそのご家族が楽しみにしている事業である。今年度は昨年度に比べ10人以上多く、自宅訪問者も増え写真撮影に時間がかかったが、広報部員が協力し合い、効率よく行うことができた。かさまつのさとでは、久しぶりに会えた旧友と会話を楽しむ場面も見られ、交流の機会ともなっているように感じた。伊賀良独自の取り組みとして今後も大切にしていきたい。		
その他	学校開放運営委員会議・調整会議		0円	継続	8	520	120	14,637	年4回	伊賀良公民館
	目的	利用団体を対象に、学校施設の有効活用を目指す	実施内容	利用団体・地域の方々为主体となり、地区内の学校体育施設の利用調整をするために「学校体育施設運営委員」として、教育委員会から委嘱され、生涯学習・スポーツ課が担当となり実施している。 利用調整や会議の運営に関することへの支援をする。			評価	【総括と今後の方向付け】 限られた学校体育施設を多くの利用者が気持ち良く有効に活用できるように調整している。年々反省を元に運営方法、調整資料が充実されてきているが、やはり使用者が日々変わる中でいかに利用方法が周知できるかが課題である。次年度は小学校に新体育館が建設され、ますます調整が難しくなる。運営委員会を中心にしっかりと準備し、有効活用できるようにしていきたい。		
その他	展示コーナー運営委員会		0円	継続	1	15	15	14,637	4月23日	伊賀良公民館
	目的	公民館利用団体及び公民館利用者を対象に、利用者への活動の発表の場を提供するとともに、公民館利用者が文化芸術に触れる機会を提供することを目指す	実施内容	公民館ロビーにある展示コーナーを活用し、年間を通じて各団体などの発表の場、会員の拡充を図る場として、利用調整及び啓発のために運営委員会を開催。 展示団体の紹介に写真を使い、統一した様式を使用。アンケート用紙なども備えている。 これとは別に社会教育関係団体や公民館からのお知らせ掲示板を開設し、活用している。			評価	【総括と今後の方向付け】 年度当初に年間の展示団体および展示期間を決定し運営している。展示団体は、文化祭に向けて製作を進めるとともに、ロビーへの展示作品にも力が入る機会となっている。また、公民館へ訪れた地域住民が足をとめ鑑賞することが多く、芸術文化の振興にもつながっている。 展示コーナーの固定化されているが、新たに展示したいと考える団体も出てきている。運営委員会で検討し、改善していきたい。		

県公民館の事業報告

区分	事業名			予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	いちご学級・りんご学級(1歳児学級)			市・地	継続	24	3,360	70	138	別記記載	県公民館ほか
	目的	就園前の子供とその親を対象に、育児学級と親同士の交流を図る	実施内容	<p>1歳になる学年の子どもと母親を対象として、母親が子どもの成長を見る機会とする。また、母親が孤独な育児をしないよう、仲間作りの場とする事を目的として行う。月齢によって2グループに分けて実施。</p> <p>りんご学級 ▼第1回(5/30) ▼第2回(6/27) ▼第3回(7/25) ▼第4回(8/29) ▼第5回(9/26) ▼第6回(10/24) ▼第7回(11/28) ▼第8回(12/19) ▼第9回(1/28) ▼第10回(1/30) ▼第11回(2/27) ▼第12回(3/13)</p> <p>りんご学級 ▼第1回(5/23) ▼第2回(6/20) ▼第3回(7/18) ▼第4回(8/22) ▼第5回(9/19) ▼第6回(10/17) ▼第7回(11/21) ▼第8回(12/12) ▼第9回(1/16) ▼第10回(1/28) ▼第11回(2/20) ▼第12回(3/6)</p>							
										【総括と今後の方向付け】 昨年度と同様、月齢で2グループに分けて実施した。人数の多さと月齢による成長・発達の違いから児の状況も母の心配事等も異なるので、グループ分けはよかった。スタッフは、Aグループは子育て支援センターの保育士と保健師、Bグループは在宅保育士と保健師で行った。来年度も、親同士の仲間作りの場、子育て相談の場としても進めていく必要がある。	
学級・講座	たんぼ学級(2歳児学級)			市・地	継続	20	1,840	46	113	別記記載	県公民館ほか
	目的	就園前の子供とその親を対象に、育児学級と親同士の交流を図る	実施内容	<p>2歳児とその親を対象に、体を使った遊びや外遊びを主に、多様な遊びを親子で楽しむ。</p> <p>▼第1回(5/21) ▼第2回(6/4) ▼第3回(6/18) ▼第4回(7/2) ▼第5回(7/16) ▼第6回(7/28~30) ▼第7回(8/20) ▼第8回(9/3) ▼第9回(9/24) ▼第10回(10/2) ▼第11回(10/21) ▼第12回(11/5) ▼第13回(11/19) ▼第14回(12/3) ▼第15回(12/17) ▼第16回(1/15) ▼第17回(1/18) ▼第18回(2/4) ▼第19回(2/18) ▼第20回(2/4)</p>							
										【総括と今後の方向付け】 スタッフは在宅保育士と保健師、また地区内の保育園保育士に協力を得て運営した。来年度も、親同士の仲間作りの場、子育て相談の場としても進めていく必要がある。	
学級・講座	つくし学級(3歳児学級)			市・地	継続	22	1,452	33		別記記載	県公民館ほか
	目的	就園前の子供とその親を対象に、育児学級と親同士の交流を図る	実施内容	<p>保育園等入園前(3歳児)の子どもとその母親を対象に、親子体操、下農との交流、料理教室など親子が楽しんで過ごせる時間を提供する。</p> <p>▼第1回(5/14) ▼第2回(5/28) ▼第3回(6/11) ▼第4回(6/26) ▼第5回(7/9) ▼第6回(7/23) ▼第7回(8/1) ▼第8回(8/25) ▼第9回(9/10) ▼第10回(9/24) ▼第11回(10/2) ▼第12回(10/21) ▼第13回(11/5) ▼第14回(11/20) ▼第15回(12/8) ▼第16回(12/18) ▼第17回(1/21) ▼第18回(1/28) ▼第19回(2/12) ▼第20回(2/25) ▼第21回(3/4) ▼第22回(3/18)</p>							
										【総括と今後の方向付け】 親子体操、季節毎の行事、下農との交流など月2回のペースで開催。楽しみながら親子のスキンシップや集団生活を体験する場を提供した。また母親によるグループ発表の場を設け母親同士の交流と自主性の向上を図った。さらに、地区内の各保育園の保育士さんが協力して企画運営して頂く単元を設けた。 地域の方が託児を行う機会を設けることで、地域との繋がりを持たせることもできている。来年度も多様な活動を提供し、子育てと交流を支援していく。	
学級・講座	保育園・幼稚園との連携による子育て支援事業			市・地	継続	3	500		13,519	実施内容参照	実施内容参照
	目的	保育園、子を持つ親を対象に、家庭教育の支援	実施内容	<p>家庭教育を支援する方法として、幼保側の既存事業に公民館が協力する。公民館単独の事業より幅広い参加者を募ることができるため地区内の保育園との協働により実施した。</p> <p>①明星保育園 5/11 ポニーとふれ合おう 会場: 県小学校校庭 ②県幼稚園・みつば保育園・県東保育園 10/21 人形劇循環公演(むすび座) 会場: 県公民館</p>							
										数量的成果 (項目名と数) 【総括と今後の方向付け】 幼保園内の行事に止まっていたものを、地域へ開放し、希望者が参加できる形として実施することで、幅広い参加者が一堂に会する場となった。保育園の希望に沿って学級講座という形で実施しているが、子どもを育む会等の子どもと関連する団体とつなげることでより内容に厚みが増し、地域とのつながりがさらに深まるのではないかと感じる。	

県公民館の事業報告

区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	大人のBUKATU	市・地	新規	6	170		13,519	実施内容参照	実施内容参照
学級・講座	目的 子を持つ親を対象に、家庭教育支援を行う	実施内容	<p>かなえ子育てネットワーク「すくすくの樹」メンバーを中心に新たな事業として開始。子どもを対象にするのではなく子育て中の親を対象に事業を行う。活動を通じて親同士の交流を深めるだけでなく、新たな生きがいを持っていただくことで、日々の生活を生き生きと過ごす親の背中を子どもに見てもらえる展開を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 7/19 発足式 ▼ 9/26 セルフハンドエステ 講師:上河内陽子さん 会場:県公民館 ▼ 11/22 本格キムチをつくろう 講師:山田安世さん 会場:県公民館 ▼ 12/21 わが子の専属トレーナーになろう 講師:熊谷賢一さん 会場:県公民館 ▼ 2/1 氷爆を見に行こう 会場:喬木村 ▼ 2/11 心も体もリセット!ピラティス!! 会場:小学校体育館 			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 今年度からの新規事業として実施。子育てで疲れた体や心をリフレッシュし、自身の新たな楽しみを見つけていただけるような内容を企画した。新規事業のため当初は認知度が低く参加者が少なかったが、最後のピラティス講座では70名の方に参加いただいた。講座自体はどれも好評で、継続的に行いたいという参加者からの声もあるため、次年度以降も引き続き実施する。事業展開は、公民館主催から、参加者の自主的な方向で展開できるよう後方支援の形で関わる。ピラティスについては継続を希望する声が多いため、来年度、新たな社教団体として活動できるように展開を図る。</p>		
区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	かなえっこ どっきどきスクール	地区費	継続	5	150	37		実施内容参照	実施内容参照
学級・講座	目的 親子を対象に、家庭教育の推進を図る	実施内容	<p>夏休みの期間に、昼間1人で過ごす子どもが多い現状から、子どもの孤立した時間の解消に務める。また、参加する子どもの保護者とOB保護者が主体となり企画運営を行う。お手伝い及び学習の一環として飯田女子高の生徒も運営に参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> 7/29 久米川で遊ぼう 場所:久米川(川路) 講師:内田幸一さん 7/30 矢高公園で水遊び&おやつづくり 場所:矢高公園 講師:内田幸一さん 7/31 お外でピザパーティー 場所:風越子どもの森公園 講師:内田幸一さん、おもしろ科学工房 9/6 反省会 場所:県公民館 			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 今年で8年目の事業となったこの企画の良さは、保護者だけでなくOBの保護者も参加し企画運営している点にある。身近に子どもと関わっている人たちが意見交換し子どもに感じて欲しい事や体験してもらいたい事を話し合うことで、共有意識が生まれ、その想いを実現するためにみんなで活動することで一体感が生まれる。そのため、子どもだけでなく保護者の方からも事業に対する評価は高い。メンバーが固定化されないよう多くの皆さんに参加してもらえるよう周知を図りたい。</p>		
区分	事業名	予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
	県小中PTA公民館合同講演会	市・地	継続	1	120	1	13,519	11月11日	県公民館
学級・講座	目的 子を持つ親を対象に、学習の推進を図る	実施内容	<p>県小中学校PTAと県公民館の合同公演会として実施。今年度は県地区が飯田市へ合併して30周年ということもあり、まちづくり委員会とも共催し合併記念事業にも位置づけて実施。 講師:荻原健司さん(北野建設ゼネラルマネージャー) 演題:「人を育てる」～オリンピック選手育成の現場から～</p>			評価	<p>【総括と今後の方向付け】 企画段階から主催3団体が集まり、方向性を確認する中で講師を選定する過程が非常に良かった。対象者と比較し参加者が少ないのが残念だが、企画段階で3団体の連携が深まるので、講演会の単発事業で終わらせるのではなく、ここで生まれた連携を以降の展開に生かす方法を試みたい。</p>		

県公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	華甲大学(高齢者学級)		市・地	継続	9	634	92	13,490	実施内容参照	県公民館ほか
	目的	高齢者を対象にした生きがいつくり	実施内容			<p>生涯教育の一環としての高齢者を対象にした学級として開催。今年度のテーマを「生涯青春、生涯学習」と掲げ多彩な講座を実施した。</p> <p>5/16【開講式】「高齢者の健康」講師：福澤紀美江(保健師)80人 6/20笑って笑って健康アップ!(笑いヨガ) 松村秀樹(松村接骨院)94人 7/18音楽を通して喜びと感動を味わう 木下睦之(元伊賀良社福協議会会長)84人 8/22人生の最終章を自分らしく生きるために 二木はま子(看取りの文化研究所)101人 9/19飯田城絵図を読む 櫻井弘人(飯田美術博物館)64人 10/24【一日研修】信州の鎌倉を訪ねて～上田・別所への旅～38人 11/21楽しい脳いきいき講座 村松有光(元数学教師)67人 12/16からだイキイキ体操 小林新一((有)健康サポート)40人 1/23【閉校式】桜よもやま話 森田和(市(桜守))66人</p> <p>【総括と今後の方向付け】 男性が少ない。受講生が広がっている。県高齢者クラブと連携し、各単位高齢者クラブ役員を運営委員に加えて学級の日程や内容を決定。講師については、文化・歴史・健康・自然など様々な分野から講師を選出し、受講者から好評を得ている。しかし、参加者の割合が女性と比較し男性が少ない。男性は役職等がないと地域事業等への参加率が低い傾向にある。本事業のテーマが「生涯青春、生涯学習」のため、男性の参加者増加に向けて検討したい。また、地区外の参加者も増加傾向にあり全体の3割近くを占めている。地区外の皆さんとの交流を視野に入れながら、地区内の参加者増加に向けた周知が必要である。今後は講座の継続実施もさることながら、高齢者クラブの活性化が大きな課題となっている。</p>				
学級・講座	世代間交流事業		市・地	継続	5	157		600	実施内容参照	実施内容参照
	目的	子どもを対象に、世代間交流の推進を図る	実施内容			<p>世代間交流事業は、各分館や高齢者クラブと連携し実施。幼稚園・保育園・小学生などを対象とした正月飾りや書き初め教室を実施。</p> <p>12/14お正月飾りづくり 講師：上山東・西部年輪会 会場：上山区民センター 30人 12/21しめ縄づくり 講師：下山高齢者クラブ 会場：下山苦民会館 30人 12/22お正月飾りづくり 講師：県高齢者クラブ連合会 会場：県幼稚園 全園児 12/22おやすづくり 講師：下山高齢者クラブ 会場：東県保育園 全園児 1/4書き初め大会 講師：中平高齢者クラブ 会場：中平公民館 30人</p> <p>【総括と今後の方向付け】 事業を通じて地域の伝統文化行事が後世に伝えられているだけでなく、講師の生きがいつくりにもつながる事業となっている。また、分館規模で実施していることもあり、地元保育園と合同で実施したり、保護者が子どもと一緒に参加しやすい事業となっているのも特徴である。本館事業としてこのような事業を行うと、参加者が薄くなってしまう講師が不足するという状況となることが予想される。分館規模で実施されながら本館事業として位置付けることで、取組みを全体で共有しやすく、お互いに刺激も生まれる。獅子舞等の伝統文化が地区内に多く残っているため、全体で共有しながら今後のさらに進展するよう検討したい。</p>				
学級・講座	各種料理教室		市・地	継続	4	109		13,490	実施内容参照	県公民館
	目的	地域住民を対象に、料理を通じて交流を図り食の大切さを学ぶ	実施内容			<p>市役所保健課、食改と連携した事業。複数回数行うことで幅広い世代で体験できる事業とする。料理づくりを通して実技を習得するとともに、食育、健康などへの関心を高める。グループによる役割分担や試食を通じて参加者相互の親睦と交流を図った。</p> <p>7/5男性料理教室(壮年団対象) 36人 9/24親子料理教室(3歳児対象) 23人 11/20女性料理教室 19人 2/21親子料理教室(園児～中学生対象) 31人</p> <p>【総括と今後の方向付け】 各講座で参加者の料理レベルを合わせるため対象者を絞り実施している。そのため、交流が非常に深まりやすい。また、保健課や食改と連携していることもあり、食育へつながる事業でもあるため、保護者から好評を得ている。課題としては調理室へ入れる人数に制限があるため、参加希望者に限りが出てしまう。天候に左右されるため難しいかもしれないが、今の仕組みをさらに発展させ、環境課等とも連携しながら外でのエコッキングが行えれば、人数に制限されることなく、さらに学びん視点も増やせるのではないかと感じる。</p>				
学級・講座	男性料理クラブ		地区費	新規	7	161	23	13,490	実施内容参照	県公民館
	目的	地域住民を対象に、料理を通じて交流を図り食の大切さを学ぶ	実施内容			<p>60代以上の男性を対象に料理を通じて交流を図る事業として実施。学級講座として開催している各種料理教室の「男性料理教室」が好評であったため、来年度より自主運営を見据え、今年度は学級講座に位置付けて行う。</p> <p>実施日：7/31、9/8、10/14、11/10、12/8、2/9、3/11 講師：稲垣享子(食改)</p> <p>【総括と今後の方向付け】 地域で役職のない男性の地域参加率が低い傾向にあるため、学級講座で好評だった「男性料理教室」を自主運営を目指して学級講座として開催。料理技術を高め自立した生活をサポートをするだけでなく、新たな仲間との交流を深める事業となっている。</p>				

県公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
学級・講座	古文書講座		市費	継続	11	297	27	13,600	実施内容参照	県公民館
	目的	住民を対象に、郷土学習の推進を図る	実施内容	ふるさと学習の一環として、貴重な古文書の解説やその時代の背景などを学習する講座として開講 全11回 講師 今牧久先生(伊賀良) 日時 5/13、6/10、7/8、8/19、9/9、10/14、11/11、12/11、1/13、2/10、3/10			評価	【総括と今後の方向付け】 今後も古文書の解説をひとつの契機に、地域や郷土の自然、歴史など、より深い理解を進めたい。		
学級・講座	地育力向上講座「ずんずんず〜ん隊」		市・地	継続	3		35	13,400	実施内容参照	上茶屋田圃
	目的	小学生を対象に、食の大切さと、環境保全への意識を高める	実施内容	県公民館の重点事業「かなえ再発見事業」の一環。遊休農地を利用した、田植え及び畑作り(さつまいも植え)を実施。食の大切さとともに、環境保全への意識を子供たちに伝える。上茶屋分館との共同実施 第1回(5/18)農業体験 参加者11名 トウモロコシとネギの植え付け 第2回(5/25)米作りと農業体験 参加者12名 田植えとサツマイモ植え付け 第3回(9/23)収穫体験 参加者12名 稲刈り、さつまいも掘り			評価	【総括と今後の方向付け】 例年上茶屋分館協力のもと事業が行われている。食育や環境を体験から学ぶことができる非常に良い講座であるが、参加者数が減少傾向にある。県地区内の他分館でも多様な事業展開が行われている。各分館の良い事業を共有化し、体験する子どもたちにも県全地区に対してふるさと意識が根付くためにも、上茶屋分館以外の地区にも協力いただきフィールドを拡大した事業展開が必要と感じる。		
文化事業	ふるさと再発見ワンデーマーチ		地区費	継続	1		454	13,490	5月3日	県地区内
	目的	地域住民を対象に、地域文化の向上を図る	実施内容	地域の歴史や文化について学びながら県地区を巡り、また家族で一日を楽しく歩くことを目的に実施。「家族で一日を楽しく歩くこと」「地域の歴史や文化について学ぼう」がテーマ▼コース 県公民館(出発)→下山区民会館→ビーラクス松川→切石会館→上山区民センター→県公民館(到着) 約7km			評価	【総括と今後の方向付け】 今年度は新設された分館施設をコースのポイントに入れた「分館巡り」として実施。地域の方から各ポイントで説明いただき地域を学ぶ機会とした。普段歩くことがない道をコースとしたため、地域を改めて知ったという声を多数いただいた。		
文化事業	いいだ人形劇フェスタ2014		市・地	継続	8	2,126		13,519	別記記載	県公民館ほか
	目的	地域住民を対象に、フェスタの盛り上げ、住民の交流と、地域文化の向上を図る	実施内容	全8会場、観劇者総数1,206人、スタッフ総数250人、ワッペン販売総数374枚 全会場共通の取組み: 県打ち水大作戦 県ワクワクタイム大作戦 ①8/7 県幼稚園 観劇者359人 劇団: えぶろん座、こぶしっこ ②8/8 県中武道場 観劇者171人 劇団: オペレ、すずきじゅく ③8/9 上茶屋多目的集会所 観劇者29人 劇団: ゆい*ハペットシアター ④8/9 切石会館 観劇者111人 劇団: どむならん ⑤8/9 下山区民会館 観劇者129人 劇団: 県中学校人形劇部のん 風工場 ⑥8/9 県小第1体育館(オリジナル企画) 観劇者125人 劇団: スリー・ピース ⑦8/10 一色公民館 観劇者87人 劇団: とうふねこ座、グレゴの音楽一座 ⑧8/10 名古熊公民館 観劇者170人 劇団: 燕屋			評価	【総括と今後の方向付け】 地区公演自体は分館等で主体的に運営が円滑に行われた。交流会も多くの会場で行われ、地域の方や会場のスタッフ、劇人と楽しく盛会にできた。人形劇開演前の時間を楽しんでもらうための県ワクワクタイム大作戦は、昨年度まで固定したメンバーで行っていたが、今年度より各分館内から選出してもらうことで新しい人材発掘につながった。オリジナル企画も1会場あり来年度に向かって盛り上がりを見せている。しかし、各会場の上演時間が重なってしまい全会場を見れないためせっかくの良い取り組みが地区内で共有しづらい。来年度は上演時間を調整し各会場に多くの人が足を運ぶことができる工夫が必要。		
文化事業	県打ち水大作戦		市・地	継続	1	1,206		13,400	飯田人形劇フェスタ開催期間中	地区公演会場
	目的	地域住民を対象に、環境意識の向上を図る	実施内容	いいだ人形劇フェスタの際に県地区全会場で「みる・えんじる・ささえる」全ての人が打ち水を実施し放射線を測定する。開演前のアナウンスで結果を報告し環境意識の高揚を図る。おひさま進歩と共同で実施。			評価	実施することで観劇者だけでなくスタッフ側にも環境意識の啓発となっているため今後も継続して行いたい。おひさま進歩との連携については今後工夫が必要。		
文化事業	第12回かなえの景観写真コンテスト		市・地	継続	1	3,000		13,519	11月8日～9日	
	目的	地域の自然や文化に着目し、それらを展示発表する	実施内容	県の景観を写真におさめ、ふるさとの再発見と、地域への愛着を高める取り組み。一般の部と小中学生の部に分け募集を行う。審査員は、県在住の写真家などへ依頼する。応募作品数: 一般の部22点、小中学生の部15点			評価	【総括と今後の方向付け】 地域の風景を後世に記録として残すとりくみ。集められた作品の活用が文化祭展示のみのため、保存という目的だけでなく、活用という発想も必要である。		

県公民館の事業報告

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
文化事業	第6回ふるさと県CMコンテスト		市・地	継続	1	200		13,519	11月8日	
	目的	地域住民が、地域の自然や文化に着目し、それらを展示発表を行う。	実施内容		県公民館10分館による地域CMづくり。ふるさとの再発見と、地域への愛着を高める取り組み。審査員は、県在住の映像専門家などへ依頼する。成人式や県地区新春放談会等地域全体が集まる様々な場で地域学習の教材として利用する。		評価	【総括と今後の方向付け】 今年で6回目を迎える本事業は、スタート時と比べて撮影技術等が向上し完成度は高まっている。CM作成を技術のある方に任せているということが理由として大きい。作成段階を地域学習として位置付けることで本事業の良さが出てくると感じる。また、完成されたCMの幅広い利用も今後の課題と感じる。		
文化事業	ふるさと県ふれあい広場・文化祭		地区費	継続	1	3,000		13,519	11月8日～9日	県公民館・県体育館
	目的	地域住民を対象に、地域文化の向上を図る	実施内容		公民館文化サークル及び各分館の地域文化活動発表の場、また、県地区各種団体の活動発表の場として実施。 ▼開会式(オープニングセレモニー)▼展示部門 51団体参加 ▼催事部門 ○特別展:県の獅子頭展 ○ふるさと県CM大賞 ○ふるさと県写真コンテスト ○ドリームかなえくじ ○県まるごとウォークラリー ○THE太鼓まつり ○かなえ音楽の祭典 ▼模擬店部門 10団体参加 ▼バザー部門 (健康福祉委員会主催)		評価	【総括と今後の方向付け】 今年度は県地区が飯田市へ合併して30周年を迎えたこともあり、合併記念事業としても位置付けて実施した。風越高校やOIDE長姫高校の生徒にも参加いただくなど、小学生から高校生まで幅広い参加があり盛り上がりを見せた。一方で、運営体制に課題が挙げられた。実行委員会体制で行われている本事業だが、実際は主催である公民館と健康福祉委員会が主体であり、本事業に携わる多くの団体は実行委員ではあるが参加者という認識となっている。県地区が一丸となって取り組んでいる事業は少ないため、このような機会を通じて、地区内の交流と結束を深めていきたい。		
文化事業	県地区成人式		市・地	継続	1	112		162	1月12日	県文化センター
	目的	新成人を対象に、地域学習の推進を図る	実施内容		▼成人式実行委員会 ・二十歳の思い出アルバム作成 ・二十歳のメッセージまとめ ・成人式当日の運営検討 ▼記念式典 ・一色獅子保存会の祝舞・開式の辞 ・主催者挨拶 ・来賓祝辞 ・恩師からの祝辞 ・来賓紹介 ・祝電披露 ・新成人代表挨拶(2名) ・二十歳の思い出アルバム ・新成人による空手演武・昨年新成人を迎えた先輩よりメッセージとダンス披露・閉式		評価	数量的成果 【総括と今後の方向付け】 文化委員に成人式実行委員を各地区の中から選出いただくことに協力頂いた。実行委員会は今年度6名の関わりであり、当日の式典運営について皆で検討し進めてきた。今後、実行委員会を通じて出来た青年の集まりを地域活動に繋げていきたい。		
体育事業	県地区体育祭(ペタンク大会)		地区費	継続	1		722	13,490	6月1日	矢高グランド
	目的	地域住民を対象に、住民相互の親睦と交流を深める	実施内容		▼種目 ペタンク 参加者10分館、計120チーム、全180試合 各分館12チームづつの編成で対戦した。恒例となっている上田市との交流戦も実施。勝:上茶屋、準優勝:下山、3位:一色 (交流戦は飯田市の勝利)		評価	【総括と今後の方向付け】 終了後に行われる各分館の懇親会等もあり、交流を深める事業につながっている。反省として挙げられているのは上田市との交流について今後さらに深めていく方向であれば交流内容を検討する必要がある。		
体育事業	第29回県地区縦断駅伝大会		地区費	継続	1	700		13,600	9月7日	県地区内
	目的	地域住民を対象に、相互の親睦と交流を深める	実施内容		県地区内居住或いは事業所に勤務するランナーによって、県地区内を縦断して競走する。大会コース 8区間・12km 参加申し込み50チーム(当日出場:46チーム) 【総合の部】優勝:名古屋分館 準優勝:チームアップロード 3位:下農バスケ班 【分館の部】優勝:名古屋分館 準優勝:下山分館 3位:切石分館 【小学生の部】優勝:切石少年野球1 準優勝:県ブルーキングスA 3位:切石少年野球2		評価	【総括と今後の方向付け】 年々参加チームが増加しており、今年度は50チームの申し込みがあった。当日までに都合のつかなくなったチームが4チームあったため46チームで争うこととなった。小中学生だけでなく、下農、OIDE長姫の高校生も大勢参加してくれ大会は非常に盛り上がりを見せている。規模が大きくなることで安全面をた持つことが難しくなってくる。そのため、コースを変える等の運営を大きく変えることは難しい。また、駐車場やトイレも規模に応じて今後検討する必要がある。		

県公民館の事業報告

No.6

区分	事業名		予算区分	事業区分	開催回数	のべ参加数	1回参加・登録数	対象数	開催期日	開催会場
体育事業	県地区女性バレーボール大会		地区費	継続	1	80		13,600	9月7日	県小学校第一体育館
	目的	地域住民を対象に、相互の親睦と交流を深める	実施内容	県地区内の分館を単位とした女性バレーボールチームの交流として、飯田市大会の予選も兼ねて実施。運営は参加チームが主体的に行っている。 ▼参加 4分館4チーム 優勝:上山 準優勝:中平 3位:切石 4位:名古屋			評価	【総括と今後の方向付け】 飯田市女性バレーボール大会予選会としての位置づけ。4チーム(分館)の参加で実施。昨年同様、メンバーが集まらずチーム編成が出来ない地区が多く、今後の運営のあり方もふくめて課題が残る。		
体育事業	冬季スポーツ大会(ワンバウンドふらば～るバレーボール)		地区費	継続	1	700		13,490	2月8日	県体育館
	目的	地域住民を対象に、相互の親睦と交流を深める	実施内容	県地区内の分館を単位とした大会として、男女混成の一般や小学生チームの参加により、参加者及び分館同士の親睦と交流を深めることを中心に実施。各分館一般の部2チーム、小学生の部1チームの計3チームを選出し争う。 【一般の部】優勝:上茶屋2 準優勝:上山1 3位:西県1 【小学生の部】優勝:上茶屋 準優勝:中平 3位:下山			評価	【総括と今後の方向付け】 当日に向け各分館で予選及び練習が行われ、分館内の交流を深める事業につながっている。小学生の参加者が増加していることから、保護者世代の参加者も増加していることが分かり幅広い年齢層が当日集まる多世代交流の事業にもなっている。表彰をチームごとに行っているが、分館対抗のため総合の部での表彰が必要という声があがっている。		
体育事業	ニュースポーツ講習会		地区費	新規	1	34		13,490	8月25日	県中学校体育館
	目的	地域住民を対象に、相互の親睦と交流を深める	実施内容	飯田市保健課で「歩こう動こうプラステン」を推進していることもあり、ウォーキング講座を実施。また、各分館活動で活用できるよう、運動会のアイデア種目も実施。			評価	【総括と今後の方向付け】 1人でも行えるウォーキングは講座として好評だった。それ以上に運動会のアイデア種目は好評で、交流も深まり汗をかく良い運動となった。また、このアイデア種目を分館運動会で実施したところもあり、良い波及効果が生まれた。		
広報事業	「館報かなえ」の発行		地区費	継続	16	192	12	13,600	実施内容参照	県公民館
	目的	地域住民を対象に、今の情報を伝え、課題提起・課題解決、地域に関心をもってもらう	実施内容	公民館活動の記録として正確かつ公平な記事を作成する。また、住民の皆さんが「県」により深く関心をもってもらえるような紙面展開を図る。 ▼仕様 A4版、4頁～6頁 ▼館報かなえ387号(6/25発行)、388号(9/24発行)、389号(12/24発行)、390号(3/25発行) ▼1面写真【かなえびと】			評価	数量的成果 【総括と今後の方向付け】 館報県は広報と一体として発行され、館報としての存在意義を見出すことが必要とことから、ページの組み方を検討した。最終面が公民館報であり、みやすさなどで好評である。今後、広報委員自身で、地域事情の把握や記事執筆の専門性も必要である。行事報告ばかりでなく、地域の課題を取り上げたり、身近な話題、故郷を再発見できる内容なども必要である。		
その他	婦人団体連絡協議会の活動支援		地区費	継続	8	120			実施内容参照	県公民館ほか
	目的	婦人団体との連携及び活動支援	実施内容	婦人団体連絡協議会は昭和55年に発足し、県地区内の女性の活躍と連帯意識の向上を目的に各団体の代表者・女性役員が集まり活動している。公民館としては事務局としてその活動の後方支援を行う。 6/7連絡協議会、7/3施設見学(グリーンバレー千代)、9/26使用済み食油回収 10/2女性部研修会「これからの社会ゴミの減量と分別の徹底」講師:中田晃 11/20健康料理教室、1/16まちづくり委員会との懇談会、3/12反省会			評価	数量的成果 (項目名と数) 【総括と今後の方向付け】 女性ならではの視点での研修会の実施、特に環境を意識した取り組みが継続して行われているため、公民館とも連携して取り組めると良いと感じる。長年続いている廃油回収は今年度が最後の事業となったことから、現在の状況を維持していくことが難しい事が伺える。どのような形で支援していけば良いか検討が必要。		